

国立大学法人

# 名古屋工業大学

Nagoya Institute of Technology

概要 2020-2021



## 学長挨拶

名古屋工業大学は、ものづくり産業の世界拠点である中京地域産業界との融合を目指し、社会の急速な変化に即応した教育・研究組織や各種制度の改革、教育・研究の国際化、若手・女性や外国人教員の登用によるキャンパスの多様化など、様々な取り組みを進めています。

地域産業界が求める人材像を受け、2016年に新設した6年一貫の「創造工学教育課程」から、2022年の春に第1期生が卒業します。加えて、海外の研究機関と連携した長期インターンシップ、ダブルディグリープログラムやジョイント・ディグリープログラム等、大学院レベルでの教育の国際化も着々と進展しています。さらに、2020年4月から大学院修士課程を再編して分野横断的な教育・研究を円滑化するプログラム制を新たにスタートしました。このような従来の枠組みを超えた工学教育体制の下で育つイノベーション・リーダーやグローバルに活躍する技術者・研究者らが開拓する未来が、産業界との融合の証になると考えます。

一方、工学は、“モノづくり”から“コトづくり”への変遷を経て、“幸創造（サチづくり）”の時代を迎えています。例えば、AI（人工頭脳）やその関連技術の類が進化すればするほど、その意義と必要性が増してきます。つまり、これまで頭脳で展開してきた工学を、一度立ち止まって、“こころ”の眼（幸福感の視点）で客観的に見つめ直そうということです。その結果、独創的かつ幸創造型のイノベーションが社会を満ち、工学に一層の深化と信頼をもたらします。

100年に一度の大転換期といわれる昨今、大学自身のもつ意義も見直しが必要とされています。まるで深い森に居るかのようで、光が足元に届きにくくなっています。この混沌をバネにして固定概念や慣習を跳ね除け、大胆に異分野を横断して道なき道を切り拓く力強い大学改革を目指します。やがて鬱蒼とした木々が整然とし、光が射し込んで浮かび上がる足跡が、未来の幸を先取りした大学となるよう臨んでまいります。

名古屋工業大学長

木下隆利



名称及び数字については、特に注記したものを除き、2020年5月1日現在で記載しています。

## CONTENTS

名古屋工業大学憲章、大学の沿革	2
役職員、経営協議会委員、教育研究評議会評議員	3
歴代の校長・学長	4
2020年度学年暦、教員組織	5
組織	6
学部・大学院	8
図書館	11
産学官金連携機構、フロンティア研究院、全学共通支援組織	12
教育推進組織	13
学術推進組織	14
研究人財高度化組織	16
海外拠点、主な教育研究補助金採択状況、プロジェクト研究所	17
学生生活上の施設	18
役員・教職員数	20
学生数	21
2020年度入学状況	23
奨学生数	26
卒業者・修了者数、2019年度卒業者・修了者の進学状況	27
2019年度卒業者・修了者の就職状況	28
外国人留学生数	32
学術交流協定締結状況	33
2019年度科学研究費助成事業、 2019年度知的財産収入、2019年度財政状況	34
土地・建物	35
学内配置図、クラブ・サークル	36
アクセスマップ	37



## 基本使命

名古屋工業大学は、日本の産業中心地を興し育てることを目的とした中部地域初の官立高等教育機関として設立されたことを尊び、常に新たな産業と文化の揺籃として、革新的な学術・技術を創造し、有為な人材を育成し、これからの社会の平和と幸福に貢献することをその基本使命とする。

## ものづくり

名古屋工業大学は、構成員の自由な発想に基づく実践的かつ創造的な研究活動を尊ぶとともに地球規模での研究連携を推進し、既存の工学の枠組みにとらわれることなく、工学が本来有する無限の可能性を信じ、新たな価値の創造に挑戦する。

## ひとづくり

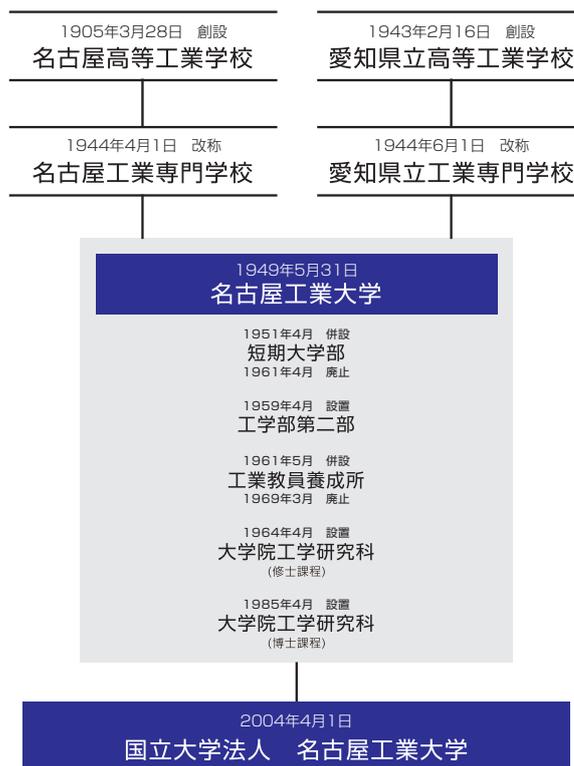
名古屋工業大学は、自ら発見し、創造し、挑戦し、行動することで、工学を礎に新たな学術・技術を創成し世界を変革することのできる個性豊かで国際性に富んだ先導的な人材の育成に専心する。

## 未来づくり

名古屋工業大学は、国民から負託を受けた開かれた大学として地域および国際社会との調和と連携を重視し、ものづくりとひとづくりを通して平和で幸福な未来社会の実現に向けて邁進する。

2012年1月1日制定

## 大学の沿革



# 役職員、経営協議会委員、教育研究評議会評議員

## ■役職員

学 長	木 下 隆 利
理 事 ・ 副 学 長	小 畑 誠
理 事 ・ 副 学 長	江 龍 修
理 事 ・ 事 務 局 長	齊 藤 修
監 事	雑 賀 正 浩
監 事	二 村 友 佳 子
副 学 長	柿 本 健 一

副 学 長	猪 股 克 弘
副 学 長	犬 塚 信 博
副 学 長	井 門 康 司
副 学 長	横 山 淳 一
副 学 長	岩 本 雄 二
図 書 館 長	小 畑 誠

## ■経営協議会委員

### 学内委員

木 下 隆 利	学 長
小 畑 誠	理 事 ・ 副 学 長
江 龍 修	理 事 ・ 副 学 長
齊 藤 修	理 事 ・ 事 務 局 長
柿 本 健 一	副 学 長
横 山 淳 一	副 学 長

2020年6月1日現在

### 学外委員

(五十音順)

磯 部 利 行	トヨタ自動車株式会社 生産本部 生技管理領域 統括部長
伊 藤 正 彦	株式会社デンソー エグゼクティブアドバイザー
掛 布 勇	株式会社大林組 副社長 執行役員
加 藤 慎 也	愛知県副知事
郡 健 二 郎	公立大学法人名古屋市長 立大学理事長・学長
神 直 樹	学校法人東邦学園理事長、愛知東邦大学学長
阪 口 正 敏	中部電力株式会社 特任アドバイザー
堀 龍 之	丸の内総合法律事務所 代表弁護士
柳 瀬 英 喜	豊田通商株式会社 副社長

## ■教育研究評議会評議員

学 長	木 下 隆 利
理 事 ・ 副 学 長	小 畑 誠
理 事 ・ 副 学 長	江 龍 修
理 事 ・ 事 務 局 長	齊 藤 修
副 学 長	柿 本 健 一
副 学 長	猪 股 克 弘
副 学 長	犬 塚 信 博
副 学 長	井 門 康 司
副 学 長	横 山 淳 一
副 学 長	岩 本 雄 二
図 書 館 長	小 畑 誠
お も ひ 領 域 長	岩 田 真
し く み 領 域 長	石 野 洋 二 郎

つ く り 領 域 長	河 邊 伸 二
な が れ 領 域 長	大 北 雅 一
生 命 ・ 応 用 化 学 教 育 類 長	橋 本 忍
物 理 工 学 教 育 類 長	大 原 繁 男
電 気 ・ 機 械 工 学 教 育 類 長	水 野 幸 男
情 報 工 学 教 育 類 長	本 谷 秀 堅
社 会 工 学 教 育 類 長	北 川 啓 介
創 造 工 学 教 育 類 長	日 原 岳 彦
基 礎 教 育 類 長	山 岸 正 和
情 報 基 盤 セ ン タ ー 長	松 尾 啓 志
先 進 セ ラ ミ ッ ク ス 研 究 セ ン タ ー 長	羽 田 政 明
サイバーセキュリティセンター長	齋 藤 彰 一

## ■事務局

事 務 局 長	齊 藤 修
事 務 局 次 長	磯 部 剛 利
事 務 局 次 長	高 木 雅 弘
学 務 課 長	三 浦 栄 一
学 生 生 活 課 長	早 川 修 一
入 試 課 長	竹 内 辰 巳
研 究 支 援 課 長	野 田 好 人
学 術 情 報 課 長	中 村 恭 子
総 務 課 長	平 松 利 朗
企 画 広 報 課 長	早 坂 勇 二

人 事 課 長	箕 浦 寿 樹
財 務 課 長	水 野 靖 志
経 理 課 長	尾 崎 澄 人
施 設 企 画 課 長	釜 谷 充 哉
技 術 部 長	柿 本 健 一
技 術 部 次 長	安 形 保 則
装 置 開 発 課 長	安 形 保 則
情 報 解 析 技 術 課 長	服 部 博 文
計 測 分 析 課 長	日 比 野 寿
技 術 部 付 け 課 長	玉 岡 悟 司

## 歴代の校長・学長

区 分	氏 名	在 職 期 間
名古屋高等工業学校長	土 井 助 三 郎	1905年 4月 ~ 1918年 4月
	武 田 五 一	1918年 4月 ~ 1920年 9月
	森 彦 三	1920年 9月 ~ 1933年 9月
	土 屋 純 一	1933年 9月 ~ 1939年 9月
名古屋工業専門学校長	平 田 徳 太 郎	1939年 9月 ~ 1945年11月
	結 城 朝 恭	1945年11月 ~ 1948年 8月
	清 水 勤 二	1948年 8月 ~ 1951年 3月
愛知県立高等工業学校長	(事務取扱) 平 田 徳 太 郎	1943年 2月 ~ 1943年 9月
愛知県立工業専門学校長	造 賀 常 一	1943年 9月 ~ 1951年 3月
名古屋工業大学長	清 水 勤 二	1949年 5月 ~ 1959年 5月
	佐 藤 知 雄	1959年 5月 ~ 1969年 2月
	(事務取扱) 城 戸 久	1969年 2月 ~ 1969年 9月
	(事務取扱) 村 井 忠 一	1969年10月 ~ 1969年11月
	(事務取扱) 山 田 保	1969年11月 ~ 1970年 1月
	(事務取扱) 森 島 宗 太 郎	1970年 1月 ~ 1970年10月
	森 島 宗 太 郎	1970年11月 ~ 1972年10月
	佐 野 幸 吉	1972年11月 ~ 1978年10月
	武 藤 三 郎	1978年11月 ~ 1984年10月
	太 田 正 光	1984年11月 ~ 1990年10月
	吉 田 彌 智	1990年11月 ~ 1996年10月
	岡 島 達 雄	1996年11月 ~ 2000年10月
	柳 田 博 明	2000年11月 ~ 2004年 1月
	松 井 信 行	2004年 1月 ~ 2010年 3月
	高 橋 実	2010年 4月 ~ 2014年 3月
	鵜 飼 裕 之	2014年 4月 ~ 2020年 3月
木 下 隆 利	2020年 4月 ~	

# 2020年度学年暦

## 前期（4月1日～9月30日）

学年始め	4月 1日
入学式	中 止
前期授業開始	5月14日 <sup>(注)</sup>
夏季休業	9月12日～9月30日 <sup>(注)</sup>

## 後期（10月1日～3月31日）

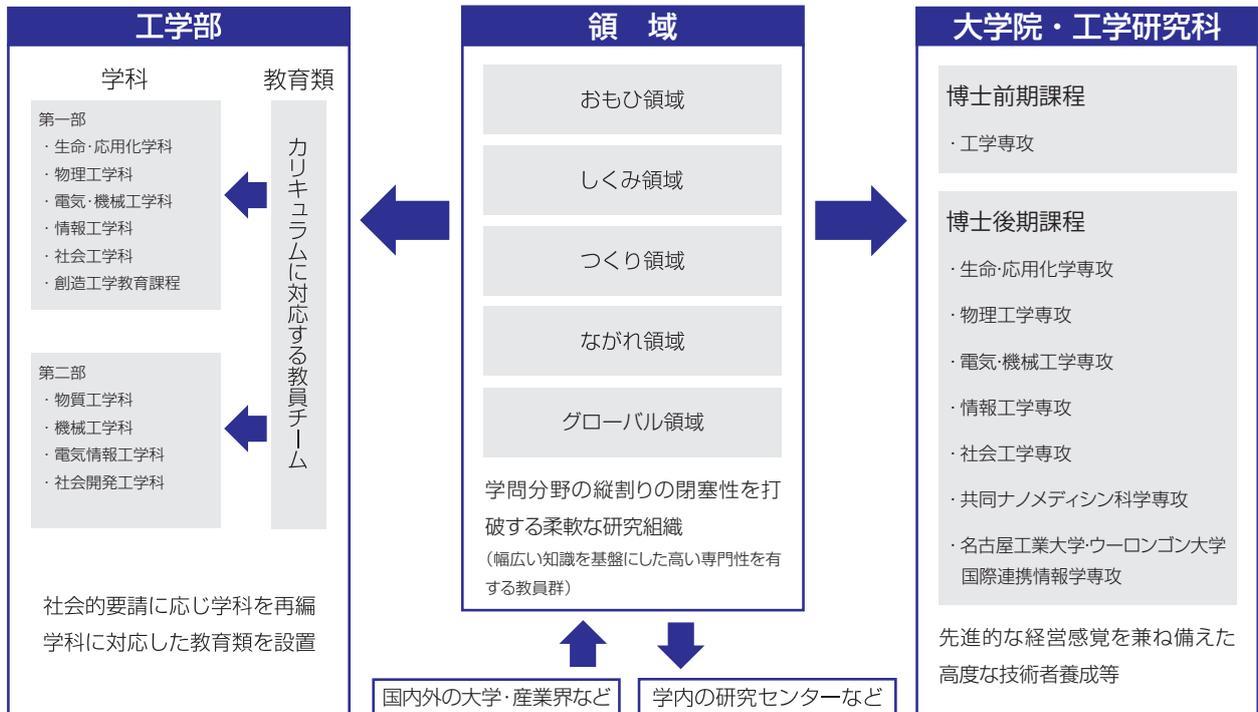
後期授業開始	10月 1日
名古屋工業大学記念日	11月 1日
工大祭（本祭典）	11月21日～22日
冬季休業	12月24日～1月6日
春季休業	2月21日～3月31日
学位記授与式	3月26日
学年終わり	3月31日

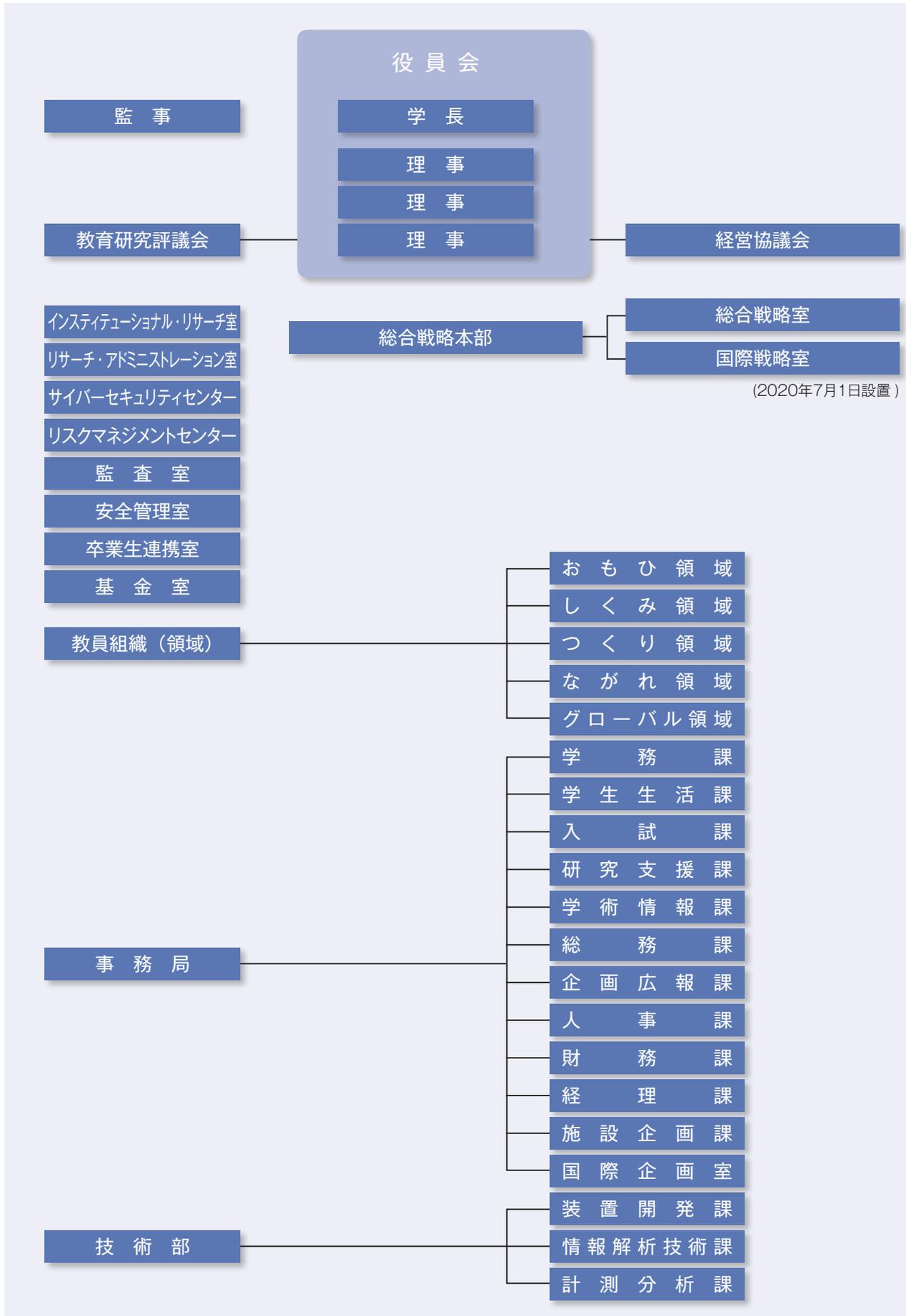
(注) 新型コロナウイルス感染症の影響拡大に伴う変則日程

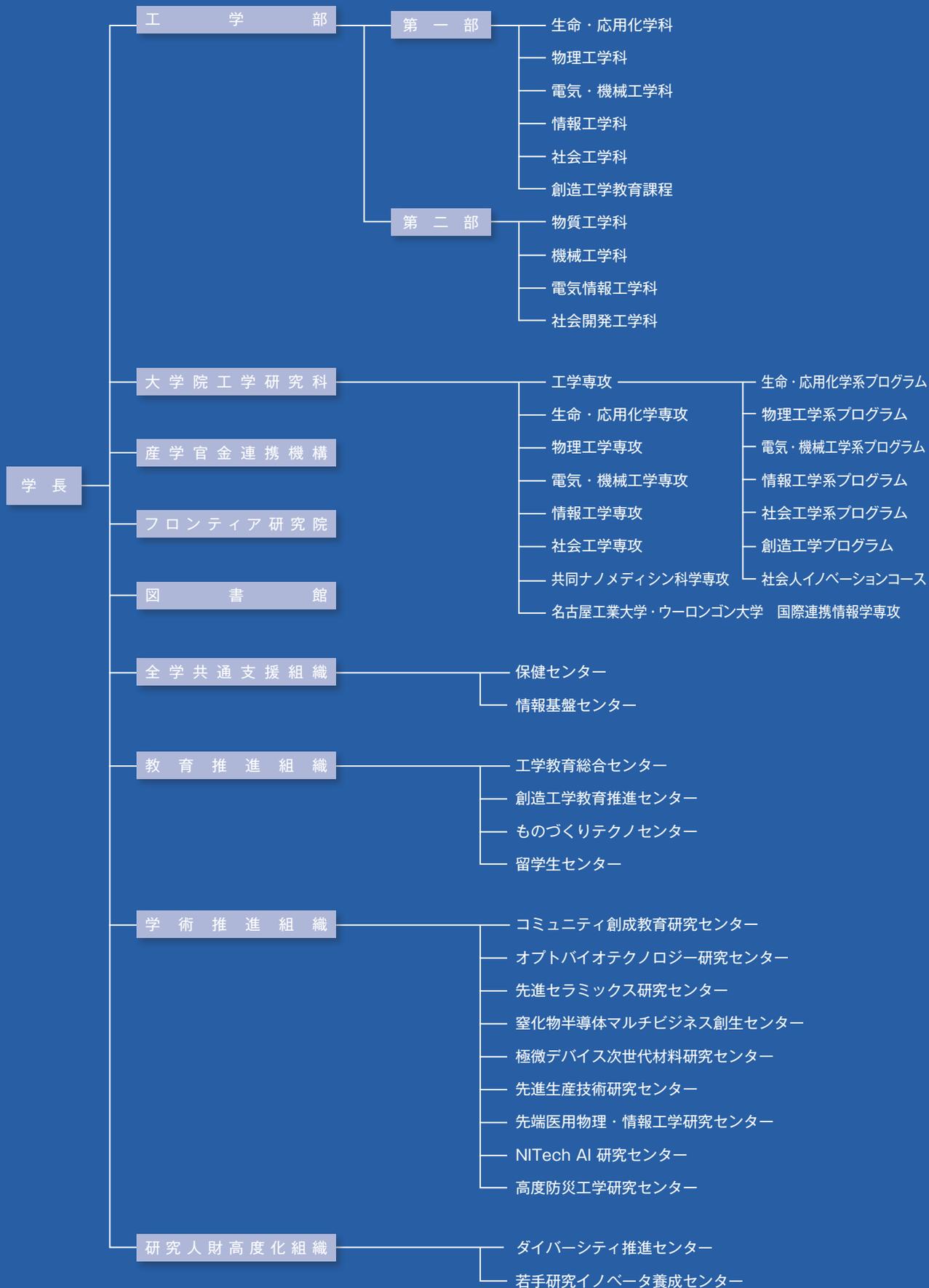
# 教員組織

## 教員組織として「領域」を設置

従来の縦割り学問分野による学科組織から離れて、異分野の教員が交流する横断的、学際的な組織であり、研究系組織として大学院に置くものです。領域は、おもひ、しくみ、つくり、ながれという四つの領域があります。各教員は、このいずれかの領域に所属し、教員同士が互いに刺激し合うことで、新たな学際的な研究プロジェクトが起ち上がることを期待するものです。また2016年度には、本学のグローバル教育研究改革・機能強化を強力に推進するために雇用する海外有力大学からの教育研究ユニットの研究者、学長のリーダーシップにより本学の研究力強化を目的として採用する教員を配属する新たな領域として、グローバル領域が設置されました。







## 学部・大学院

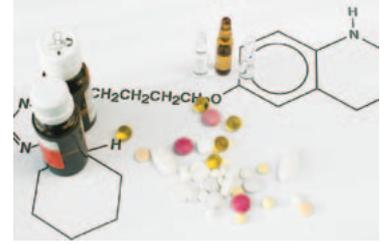
### 工学部（第一部）

#### 生命・応用化学科

環境問題やエネルギー問題等の重要課題を解決するため、分子設計、有機・無機合成、生命現象解析、高分子材料、セラミックス材料、材料物性評価、分析技術、構造解析、理論計算、物理化学現象、プロセス設計等の幅広い化学的知識を学び、新規材料の創製や、生命機能の解明・再生等のための知識と技術を習得します。

分野

- 生命・物質化学
- ソフトマテリアル
- 環境セラミックス



#### 物理工学科

地域・産業の発展と持続可能な社会の実現には、新しいシミュレーション解析やナノスケール計測技術の創成とイノベーションに不可欠な革新的機能材料の開発が求められており、そのためには「材料機能」と「応用物理」の学術分野を融合させた試みが重要です。

分野

- 材料機能
- 応用物理



#### 電気・機械工学科

自動車・鉄道・電気製品をはじめとする今日の私たちの身の回りの製品は、電気・電子部品と機械部品の巧みな組み合わせによって設計されています。これらを実現するための原理や連携技術から、これらを生産する技術まで、電気電子工学と機械工学の広範な知識と応用力を持った技術者教育が本学科の特色・強みです。

分野

- 電気電子
- 機械工学



#### 情報工学科

現代社会の基盤となるネットワーク技術、知能情報技術、メディア情報技術を踏まえ、次世代の新しい情報システムを実現できる人材、人にやさしい高度情報化社会をつくりあげていくことのできる人材を育成します。また、豊かな情報化社会に向けて既存の理論や技術を発展させ、高度な理論や技術を研究開発できる能力と感性を備えた人材を育成します。

分野

- ネットワーク
- 知能情報
- メディア情報

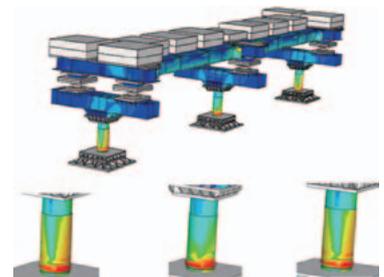


#### 社会工学科

広く人間をとりまく建築、デザイン、社会基盤整備、国土形成、環境、防災、経営工学、システム・マネジメントなどに関する課題を解決するため、持続可能な社会を構築できる高度な工学的知識と実践する能力を持つ人材を育成します。このために、本学科は建築・デザイン、環境都市、経営システムの3つの分野から構成されています。

分野

- 建築・デザイン
- 環境都市
- 経営システム



#### 創造工学教育課程（6年一貫教育）

未来の産業や社会を工学技術によって変革する技術者・研究者を育成することを目的に、2016年に開設されました。学部4年間と大学院博士前期課程創造工学プログラム2年間を接続した6年一貫の学習、分野横断的に設計するカリキュラム、研究室ローテーションなどの実践的授業を提供し、幅広い工学分野のセンスをもった総合的エンジニアを育成します。

コース

- 材料・エネルギー
- 情報・社会



## 工学研究科工学専攻（博士前期課程）・工学研究科（博士後期課程）

（博士前期課程では「プログラム」、博士後期課程では「専攻」を置いています。）

### 生命・応用化学系プログラム、専攻

分子レベルでの性質解明と生命機能解明するための知識、材料特性の設計、エネルギー変換、情報交換・伝達を学び、工学材料の開発、創薬や生体材料、環境調和性の高い材料や生命機能に学んだ様々な機能性材料の開発のための高度な知識・技術を習得します。

分野

- 生命・物質化学
- ソフトマテリアル
- 環境セラミックス

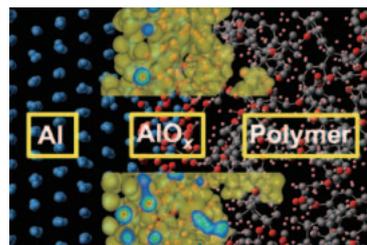


### 物理工学系プログラム、専攻

物理工学を機軸とする幅広い基盤分野に基づき、凝縮相・極限相中の重要な素過程を原子・分子レベルから解明し、ナノ組織や電子構造の制御を実践する技術を学ぶことで、環境・エネルギー問題の解決に寄与する革新的材料や機能デバイスを創成できる人材の育成を目指します。とくに、先進的なシミュレーション解析技術、ナノスケール計測と物性評価技術、材料物性・機能制御技術などに焦点をあてた教育と研究を行います。

分野

- 材料機能
- 応用物理



### 電気・機械工学系プログラム、専攻

電気・機械工学専攻は、工業技術・科学技術の創出を支える高度な教育と研究を通して、人々の生活をより豊かで実りあるものにすることに貢献します。また、電気電子工学、機械工学の学問的基礎を確実に踏まえ、かつ相互の連携を図りながら、革新的な技術創出に貢献する人材を育成します。

分野

- 電気電子
- 機械工学

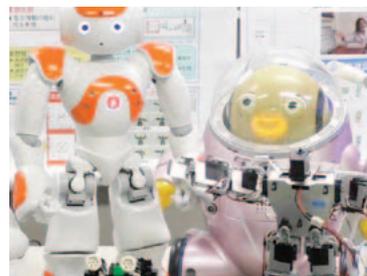


### 情報工学系プログラム、専攻

理工学手法を用いた情報数理、計算機科学、人工知能と人工生命、ソフト情報工学とハード情報工学の融合など、情報の科学と工学に関する高度な教育と研究を行うことにより、各技術分野を基盤とした視野で、先端的高度情報化の社会形成を通して、人類の発展に寄与できる人材を育成します。

分野

- ネットワーク
- 知能情報
- メディア情報
- 情報数理



### 社会工学系プログラム、専攻

建築・デザイン、環境都市、経営システムに関する課題を解決できる高度な教育と研究を通して、持続可能な社会を構築し、学際的新領域の創成に貢献できるリーダー的人材を育成します。

分野

- 建築・デザイン
- 環境都市
- 経営システム



## 工学研究科工学専攻（博士前期課程）

### 創造工学プログラム

創造工学教育課程と接続する5、6年次のプログラムです。学部段階の4年間の学修をベースに、価値創造の能力をさらに高めるため、様々な観点から研究の価値や発展性についてグループワークで検討する工学デザインワークショップや国内外の研究機関等での研究開発に参加する研究インターンシップで実践的研究力を鍛え、国際的に活躍できる人材を育成します。



## 社会人イノベーションコース

社会人が所属する機関の課題を持ち込み、この課題を解決することを研究テーマとして教員が研究指導します。授業や研究活動、そして指導教員だけでなく様々な分野の学生と教員で議論することにより、業務直結のソリューションを立案できる人材を育成する社会人向けプログラムです。



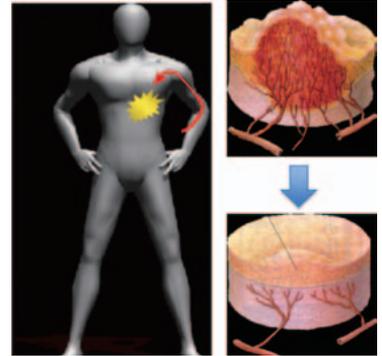
## 工学研究科（博士後期課程）

### 共同ナノメディシン科学専攻

名古屋工業大学工学研究科と名古屋市立大学薬学研究科が連携して、最先端の薬学とナノ工学を駆使し、薬を【つくる】機能医薬創成学部門（内容：高度精密有機合成、ナノメディン工学、バイオテクノロジー）、【輸送する】薬物送達・動態科学部門（内容：薬物送達科学、薬物動態科学、人工蛋白質工学）、そして【評価する】医薬支援ナノ工学部門（内容：ナノ生体医工学、バイオメカニクス、ナノイメージング）の3つの部門において、教育・研究を行い、薬工両面に精通し、新薬・機能性食品・化粧品などの研究開発のコアメンバーとなる人材を育成します。

部門

 機能医薬創成学  
 薬物送達・動態科学

 医薬支援ナノ工学


## 名古屋工業大学・ウーロンゴン大学 国際連携情報学専攻

名古屋工業大学とウーロンゴン大学（オーストラリア）のジョイント・ディグリープログラムです。本専攻を修了した学生には、両大学が共同で単一の学位を授与します。本専攻では、超スマート社会の実現や、第4次産業革命への貢献を見据え、情報学分野において世界をリードし新規研究分野を開拓できる研究者、国際的な展開を行うIT関連企業を始めとするグローバル企業において新規事業の開拓を先導するグローバルリーダーとしての実践的研究者・技術者を養成します。



## 工学部（第二部）

### 物質工学科

「化学」は、生命及び生体やエネルギー・地球環境など、我々を取り巻く様々な物質や現象と深く関わっています。本学科では、「化学」を基本とした教育を通して、幅広い視野から創造的な発想でものづくりができ、産業・社会の発展において中核的役割を担う技術者・研究者を育成することを目的としています。この目的の達成のために、工学としての基礎学力及び化学物質の構造と性質、生体・生命関連物質の構造と機能、エネルギー変換・創成に関する知識の習得、そして、これらを地球環境の保全、資源・エネルギー循環と調和した「ものづくり」技術へ応用する力の涵養を目指した教育を行っています。

### 機械工学科

第一部電気・機械工学科の機械工学分野と同様に講義・演習・実験・実習を通じて、機械の運動、物質やエネルギーの移動、材料の強度特性、機械の制御に関する正しい知識を学びます。その対象はマイクロ電子デバイスから航空宇宙、固体（粉体含む）・液体・気体、あるいは金属・樹脂・生体材料と多岐に及びます。卒業後は社会に役立つ環境にも調和した機械を開発・設計できるような、実践的で高度な技術者を養成することを教育目標としています。また、第二部機械工学科では4年生の後期に「技術士補」の資格取得をめざしたカリキュラムが組まれています。

### 電気情報工学科

現代のエレクトロニクス社会を支える、電子物性・電子デバイス・電気エネルギー・回路システム・情報通信・計算機に関する知識と技術を習得した技術者の養成を行います。最初は基礎となる数学・物理学のほか、プログラミング・電磁気学・電気回路などを学びます。続いて、専門科目の基礎として電気電子材料・情報工学などを学習し、その後電子デバイス・電力工学・制御工学・通信工学・計算機工学などを学びます。以上のように、自己の特性と学問的興味により、専門分野の先端技術を幅広く体得することができます。

### 社会開発工学科

本学科では、道路、河川、港、空港、上下水道、ダム、エネルギー施設など、私たちの安全・快適な社会生活を支える基盤施設の整備に関わる工学技術を学び、国や自治体の技術系公務員や、計画・設計コンサルタント、建設会社等の幅広い職種で活躍できる技術者を養成します。

図書館は、本学の学術情報に関する中心機関として、図書及びその他の資料を収集・管理し、学生・職員に提供し、教育、研究及び総合的教養の向上に資することを目的としています。グループ学習のための個室や一人で集中して学習できるコーナーを設置し、文献収集法の講習を実施するなど学生の能動的な学習を支援しています。

## ■開館時間

曜日	授業期間中	休業期間中
月～金	8:45～21:45	8:45～16:45
土日祝日	8:45～16:45	休館



## ■利用状況

2019年度

開館日数	315日
入館者数	246,662人
貸出冊数	45,460冊
文献複写	797件



4階	学術雑誌（技術・工学）、セミナー室
3階	学術雑誌（自然科学、技術・工学、産業）、研究ブース、セミナー室、新着雑誌コーナー、大学資料室、国際交流コーナー
2階	図書（技術・工学、産業、言語）、学術雑誌（社会科学、自然科学）、PC/AVコーナー、メディア室、自由閲覧室、セミナー室、地域連携コーナー、パソコンコーナー、集密書庫、リフレッシュコーナー
1階	図書（自然科学、技術・工学、芸術、総記、哲学、歴史、社会科学、文学）、カウンター、情報検索コーナー、ブラウジングコーナー、新着図書コーナー、インフォメーションコーナー、集密書庫
地階	閉架集密書庫

## ■蔵書数

2019年度末現在

媒体	和	洋	計
図書	259,977冊	206,759冊	466,736冊
雑誌	2,488種	3,175種	5,663種
電子ブック	662	20,230	20,892
電子ジャーナル	154	7,337	7,491



## ■リポジトリ利用状況

2019年度末現在

アイテム数	4,782
アクセス数	52,659
ダウンロード数	323,561

名古屋工業大学機関リポジトリ (<https://nitech.repo.nii.ac.jp/>)

名古屋工業大学内で生産された学術情報（博士論文や教員の発表論文など）を検索・閲覧できます。



## 産学官金連携機構

機構長 江龍 修

民間企業との組織対組織の共創関係の強化を目指して、産学官連携センターと大型設備基盤センターを一体的に統合し、産学官金連携機構へと再編しました。本機構は組織型研究プロジェクトの企画・立案等を担う「渉外部門」、共同研究や社会連携、人財育成プロジェクトの管理・運営を担う「事業創造・人財育成部門」、学内の大型・共用教育研究設備の管理・利用促進を担う「設備共用部門」の3部門で構成されています。この新しい組織体制で、オープンイノベーションに求められる大学の役割を果たし、「知・人財の交流」の拡大を図るとともに、組織として魅力ある成果を保證する提案を実施していきます。



## フロンティア研究院

総括院長・材料科学フロンティア研究院長 柿本 健一  
情報科学フロンティア研究院長 徳田 恵一

本学の教育研究機能の更なる強化を図り、卓越した研究成果を創出する人材を継続的に輩出する場を構築するため、本学の研究実績を基に若手研究者を主体に構成する材料科学フロンティア研究院と情報科学フロンティア研究院が置かれています。

学内資源の重点配分により国際共同研究を推進し、環境エネルギー分野、ヘルスケア分野及び知能技術分野を核とした国際的なイノベーションの展開を担うとともに、新しい学問分野や産業分野の創出を牽引するイノベーション・リーダーを育成し、地域及び産業の発展に貢献することを目的としています。



## 全学共通支援組織

### ■保健センター

センター長 岡田 暁宣

保健センターは大学構成員の健康支援を使命とし、疾病の早期発見・早期治療、再発予防、発症予防そして健康増進を目指しています。内科及び精神科医師(校医、産業医)、保健師、看護師、カウンセラーによる職員及び学生の健康支援、職場巡視も行っています。また、健康相談を行うとともに安全衛生委員会、教務学生委員会、安全管理室等と連携し、定期健康診断、特殊健康診断と有所見者の事後措置を実施しています。



### ■情報基盤センター

センター長 松尾 啓志

情報基盤センターは、名古屋工業大学内への電子情報基盤の提供と、この基盤を活用した教育、研究支援を行う組織として、2006年4月に発足しました。本センターは、データベース部門、コースマネージメントシステム部門、及びネットワーク部門の3部門から構成されています。学内の情報インフラを提供するとともに、新しい事務システム、教育システムの開発も行っています。さらに情報基盤センターでは、情報ネットワーク、情報メディア、情報セキュリティの研究を行っています。



## ■工学教育総合センター

センター長 吉田 江依子

工学教育総合センターは、入学から修学、卒業及び就職に至るまでを総合的に把握した上で、継続的な学生支援を推進すると同時に、本学の工学教育の質を向上することを目的としています。そのため、アドミッションオフィス、創造教育開発オフィス、キャリアサポートオフィスの3つのオフィスを設置し、互いに連携を持ちながら活動しています。



## ■創造工学教育推進センター

センター長 犬塚 信博

本学は、科学技術の深い理解と工学方法論の確かな理解を基礎として、分野横断的な視野と多面的価値観を身につけさせるための新たな教育課程、創造工学教育課程を2016年に設置しました。創造工学教育推進センターは創造工学教育課程と関連する名古屋工業大学の教育を充実させ、その結果を評価することを目的としています。

創造工学教育課程の設計及び評価を行う企画評価部門、教育に関する国際連携のコーディネーション及び教材作成等を行う国際連携教育推進部門、産学官課題解決型学習の支援及び、地域連携型体験学習のコーディネーション等を行う産学官連携教育推進部門を置いています。



## ■ものづくりテクノセンター

センター長 北村 憲彦

学生及び社会人に対し高度な実践的なものづくり教育を行うとともに、ものづくり教育システムの開発を行うことを目的としています。主な業務として、実践的なものづくり実習教育の実施、ものづくり教育システムの開発、社会人を対象とするものづくり教育の実施、教育研究用機器・機材の製作及び支援、学科・専攻横断型教育研究プロジェクトの実施と支援などを行っています。



## ■留学生センター

センター長 山本 いずみ

留学生センターは、外国人留学生の就学を支援するために、3つの日本語コース（補講コース・予備教育コース・社会人教育コース）を開講しています。各コースは目的別・レベル別にクラス分けされており、初級からビジネス日本語まで、様々なニーズに応じた授業を実施しています。また、見学旅行や文化講座、キャリアサポート・セミナー等、留学生と日本人学生がともに学ぶ機会を提供することで、グローバル人材として成長することを支援します。こうした活動を通じて、キャンパスのグローバル化を推進します。



## ■コミュニティ創成教育研究センター

センター長 小田 亮

世界に先駆けて超高齢社会となった日本ではこれまで以上に科学技術の貢献が期待されています。とはいえ、高齢者のケアだけに偏った技術貢献では社会の発展が望めません。いま求められているものは、高齢者が持続的に社会参加できる技術貢献です。それには工学と人文社会科学が融合することを通じて実現可能となる「高齢者の生活空間を視座とした技術貢献」という新しい発想が不可欠です。本センターは、こうした観点から、本学初の文理融合型センターとして、地域コミュニティを中心に多世代共生が可能となるような技術のあり方を理念的に追求すると同時に、実際に現場に出て、フィールドワークを通じて見出される、実践的な日常技術のあり方を追求することを目的としています。



## ■オプトバイオテクノロジー研究センター

センター長 神取 秀樹

光を利用した生命現象の研究は、2008年のノーベル賞につながった「光観察」に加えて、最近では脳研究に革命をもたらしている Optogenetics (光遺伝学) など「光操作」技術が大きな注目を集めている萌芽的な学問分野です。本センターは、光が関わる生命現象を工学として解析することにより、全く新しい産業の創出に貢献することを目指します。このため、光の本質や光励起現象を正しく理解し、新しい材料を生物から、あるいは生物に範を得て創製するとともに、光を利用した医療分野への展開を図ります。例えば、光駆動イオンポンプである膜タンパク質・ロドプシンは、すでに光遺伝学の重要なツールとして使われていますが、ツール開発により、さらなる発展が期待されます。本センターは3つの部門が連携して研究を遂行するとともに、学外との異分野融合も積極的に推進します。



## ■先進セラミックス研究センター

センター長 羽田 政明

地球規模で直面する環境・資源・エネルギー問題を解決し、持続型社会の構築を実現するため知的マテリアル創製学を核とし、地域の資源と技術が融合することで発展してきたセラミックス産業文化を範として、地域に即した多様な新価値を探索する国際的・学際的・融合的な先進セラミックスの工学研究を実施し、社会に還元することを目的としています。



## ■窒化物半導体マルチビジネス創生センター

センター長 江川 孝志

本学が、世界に先駆けて研究開発を進めてきた「Si 基板上に極薄の GaN 膜を成長させる (GaN/Si) 結晶成長技術」を核として、装置・材料・デバイス等の関連企業と一体となり、現在の Si 半導体の高性能化・高付加価値化により省エネルギー化を実現でき、既存の国内 Si 半導体製造ラインを有効活用し、電力需給問題解決の一助となる大電力用パワーデバイスを開発する産学官連携体制を構築。一つ屋根の下型の研究開発拠点を形成し、当該分野における持続的な実用化研究開発を進めています。



## ■ 極微デバイス次世代材料研究センター

センター長 江川 孝志

新規半導体材料及び新機能デバイス・システムの研究開発並びに産業・生産技術に直結した技術の確立等を行い、これを通して教育・研究の進展に資することを目的としています。

研究分野は、ナノ構造の結晶成長及び物性評価、発光デバイス（LED、レーザー）、電子デバイス、フォトディテクター、超高効率太陽電池です。



## ■ 先進生産技術研究センター

センター長 糸魚川 文広

本センターは、新しいものづくりに求められる先進的な加工システムの提案と開発（グローバルなニーズ）と必要な先進要素技術開発（大学の持つ先進的なシーズ）のために大学と多数の企業が参加するオープンイノベーション・プラットフォームを中心とした共創空間を提供することを目的としています。大学・地域・産業界の連携・連鎖を醸成し、その研究開発を推進・展開するためのイノベーション・ハブとなり得るセンターの実現を目指します。



## ■ 先端医用物理・情報工学研究センター

センター長 平田 晃正

本センターは、計算科学を駆使することにより取得した高品質かつ大量な計算データと、特化した実測データとを併せたデータ科学の応用により、公衆衛生・医療・製品設計が抱える諸問題を解決するための医用物理・情報工学の融合研究拠点を設置し、国内外の先端研究拠点と連携し、ヒトに関する新規学術分野を確立、多面的かつ俯瞰的な視座を備えた人材を育成することを目的としています。



## ■ NITech AI 研究センター

センター長 伊藤 孝行

NITech AI 研究センターでは、地に足のついた AI 技術をコアとするイノベーションハブとして、社会や産業の発展に貢献します。社会や産業における課題に対し、名古屋工業大学の広範な工学分野のグループと緊密に連携し共創的に解決します。当センターは次の4つのミッションを追求します：(1) 先端的・革新的な知能計算技術の追求、(2) 幅広い出口による産業界・地域社会への貢献、(3) 学術・産業グローバル展開、および (4) AI 人材育成。この4つの目的を達成するために、先端知能計算研究部門、データサイエンス研究部門、情報基盤研究部門、および社会連携研究部門を設置しています。人工知能技術戦略コンソーシアム（通称：AI コンソ）では、東海地区の中小企業の皆様を中心に、先端的な AI 技術を用いて、課題解決を行うワークショップを開催しております。AI 技術による東海地区を中心とした日本の産業や学術研究の発表に貢献していきます。



## ■高度防災工学研究センター

センター長 井戸田 秀樹

災害を予測・軽減・制御する技術の開発、巨大災害のプロセス、災害ポテンシャルの評価を通じて世界をリードする防災工学の拠点形成します。諸工学に立脚した防災・減災サービスのフレーム構築及び社会実装を通じて災害に強い地域社会の構築に貢献することを目的としています。

本センターは、都市・建築に対する災害リスクを対象とした「災害リスク評価・研究部門」、減災のための新技術の研究・開発を対象とした「防災技術研究・開発部門」の2つの部門で構成されています。また、各部門での研究成果の社会還元、および学内防災への応用・活用を目的とし、学内外組織との連携強化や円滑化のために「プロジェクト推進室（インターフェイス）」も設置しています。



## ■研究人財高度化組織

### ■ダイバーシティ推進センター

センター長 呉 松竹

ダイバーシティ推進センターは、2014-2016年度文部科学省人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」、2017-2022年度「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」の連続採択を受け、2017年10月に男女共同参画推進センターを発展的に解消して創設されました。

従来の女性研究者支援の取組をさらに深化・拡大する「多様な人材育成プログラム NITech CAN」により、女性研究者の能力向上の支援を行うとともに、正課科目にダイバーシティ教育を導入し、次世代育成に努めています。また、ライフイベント期の研究者に対する研究支援員配置、託児補助などを実施し、より快適で生産性の高い研究環境の整備を図っています。

さらに、「OG 人財バンク」の拡充、「ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾」の主催により、地域産業界と連携して女性技術者活躍のための基盤構築を進めています。



### ■若手研究イノベータ養成センター

センター長 小畑 誠

若手研究イノベータ養成センターは、2009年の設置以来、先導的融合分野で活躍しイノベーションの創出や新研究領域の開拓に取り組む若手研究者（若手研究イノベータ）を支援し、自立した国際水準の研究者に育ててきました。文部科学省科学技術振興調整費による「産学官連携による若手研究イノベータの養成」プログラムおよび2016年度からの「テニュアトラック普及・定着事業」を通じて18名を輩出しました。2015年以降は全学的な観点から、新規採用されたすべての助教の育成とテニュア審査を行っています。2020年4月時点においては22名のテニュアトラック助教（TT 助教）が所属しております。



## 海外拠点

本学の紹介及び情報発信等広報活動の推進、本学留学希望者に対する情報提供や支援、本学と諸外国の研究者による共同研究等の支援や学術・教育交流の推進等を目的としています。

共通連絡先：intpromo@adm.nitech.ac.jp

名称	国名	所長	所在地	設置
北京事務所	中国	藤 正督	北京化工大学 (BUCT) 内	2011年6月
マレーシア事務所	マレーシア	曾我 哲夫	マラ工科大学 (UiTM) 内	2013年3月
ヨーロッパ事務所	ドイツ	柿本 健一	エアランゲン・ニュルンベルク大学 (FAU) 内	2013年7月

## 主な教育研究補助金採択状況

事業名	プロジェクト名	期 間	内 容
卓越研究員事業	—	2016年度～ 2020年度	新たな研究領域に挑戦するような若手研究者が安定かつ自立して研究を推進できるような環境を実現するとともに、全国の産学官の研究機関をフィールドとして活躍し得る若手研究者の新たなキャリアパスを提示するプログラム。
科学技術人材育成費補助事業	「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ (特色型)」	2017年度～ 2022年度	工学におけるダイバーシティ推進に貢献するため、「次世代育成」と「研究者支援」を2本の柱とする人材育成プログラム「NITech CAN」の取り組みにより、地域産業界・同窓会との協同を通じてイノベーション創出の鍵となる多様性豊かな人材を育成する。
国立大学イノベーション創出環境強化事業	—	2019年度～ 2020年度	国立大学の外部資金獲得実績等に応じたインセンティブとなる資金を配分することで、国立大学における民間企業との共同研究における適切な間接経費の確保や、寄附金等の多様な民間資金獲得を推進し、イノベーションの創出に必要な財源の確保を進め、経営基盤の強化を促すもの。

## プロジェクト研究所

プロジェクト研究所は、学際プロジェクトや産学官連携に資する研究を推進するもので、事業に要する経費は、各年度2,000万円以上の外部資金をもって充て、設置期間は3年以上5年以下とすることを設置の条件としています。

研究所の名称	研究代表者 (研究所長)
コレクティブインテリジェンス研究所	伊藤 孝行
日本ガイシ マテリアルイノベーション研究所	森 秀樹
無焼成セラミックス研究所	藤 正督
表面反応化学研究所	白井 孝
国際音声言語技術研究所	徳田 恵一
建設材料研究所	白井 孝
生体電磁工学研究所	平田 晃正
ナノ材料・機能分子創製研究所	日原 岳彦
窒化ガリウムパワー半導体研究所	江川 孝志
次世代エンジニア育成研究所	産学官金連携機構長
次世代車載ネットワーク研究所	各務 学
ミリ波・テラヘルツ波ワイヤレスシステム研究所	榊原久二男
新世代耐震工学研究所	野中 哲也
ピアメカニクス・アドバンスドモーションシステム研究所	岩崎 誠

注：設置順

## 学生生活上の施設

### ■ゆめ空間 19号館1階



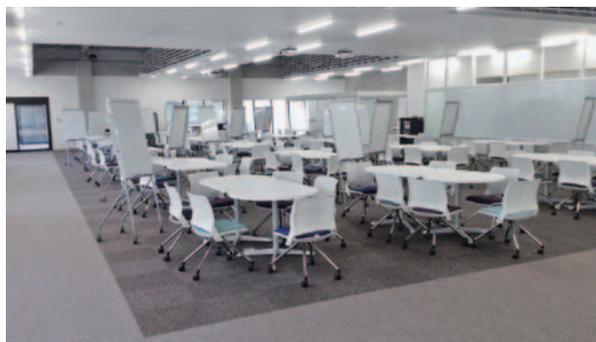
学生が集い、語り、学習することができるフリースペースとして「ゆめ空間」があります。1階を集いの場とする動の空間として飲食もできるスペース、2階は自学自習の場とする静の空間として、自由に利用できるPCも設置されている学習スペースとなっています。

### ■ゆめルーム 53号館1階



学生の集いの場に焦点をあてたフリースペースとして「ゆめルーム」があります。「ゆめルーム」は開放的で明るい空間となっており、隣には大学生協ショップ「かどっこ」があるなど、学生同士の交流がより活発にできる学生交流スペースとなっています。

### ■ラーニング・commons LI:NCs



図書館と隣接する講堂 NITech Hall (ナйтеック・ホール) の2階にラーニング・commons LI:NCs (リンクス) があります。LI:NCs は、授業やイベントで使用される時間を除き、学習スペースとして自由に利用できます。

### ■ゆめ広場 19号館北側



キャンパス屋外の憩いの広場として「ゆめ広場」があります。「ゆめ広場」は学生からアイデアを募った学内コンペティションを経て造られました。デッキはゆっくり読書をしたり、友人同士でランチをしたりと、学生がのんびりくつろげる空間です。

### ■自習ルーム・自習室 23号館2階、52・53号館各階



授業の合間等に予習・復習ができる場所として23号館2階に自習室、52・53号館講義棟の各階に自習ルームがあります。学習机は、隣席との間に衝立を備えた仕様となっており、静穏な学習環境を用意しています。

### ■保健センター



保健センターは、学生のみさんの健康について専門的な支援を行う施設です。学生の健康維持・増進、疾病の早期発見、予防等を目的として、健康診断、健康相談、健康指導等を行っています。

## ■ 大学会館



大学会館は、大食堂、カフェテリア方式食堂、喫茶室、購買、理髪店のほか、学生が利用できる就職資料室、女子談話室、集会室、課外活動施設（5室）等の機能を備え、目的に合った使用ができるようになっています。

## ■ NITech マート



NITech マートは、1階はコンビニ「はじっこ」、2階は「ラウンジカフェ」となっており、昼夜利用することができます。また、「はじっこ」内には、ATMが設置されているほか、「ラウンジカフェ」は食事の場だけでなく、コミュニケーションの場として利用することができます。

## ■ NITech Cosmo Village



NITech Cosmo Village は、4棟208室からなる外国人留学生と日本人学生が居住する国際学生寮です。ユニット制となっており、1ユニットは8つの個室で構成され、ユニット内に共用のシャワールーム2つ、洗濯スペース、キッチン、ダイニングルームがあります。外国人留学生と日本人学生が共同生活を通して、教育・研究上の国際交流を推進する場となっています。

## ■ 学生寮（恒和寮）



恒和寮は、学生生活のための良好な環境を提供し、規律ある共同生活を通して教養を高め、大学生生活の充実に資することを目的として設けられた男子学生寮です。生活上の約束事は寮生同士が話し合いで決定する「自治寮」とすることで、自立精神や社会性を養うことも目指しています。

## ■ 課外活動施設



学生がスポーツや芸術に打ち込んだり、趣味を共有する仲間と出会い活動できる場として、御器所地区には、合宿所、弓道場、体育館、プール、運動場などの施設があり、千種地区には、合宿所、野球場、グラウンドなどの施設があります。また、学外には、馬場、ボート艇庫、ヨット艇庫があります。

## 役員・教職員数

### ■役員数

学 長			理 事			監 事			合 計		
男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1		1	3		3	1	1	2	5	1	6

### ■教員数（本務者）

年齢区分	教 授			准 教 授			助 教			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
～24歳			0			0			0			0
25～34歳			0	1	3	4	26	3	29	27	6	33
35～44歳	2		2	47	7	54	16	1	17	65	8	73
45～54歳	46		46	60	4	64	6		6	112	4	116
55～64歳	78	8	86	23		23			0	101	8	109
65歳	11	1	12	2		2	1		1	14	1	15
計	137	9	146	133	14	147	49	4	53	319	27	346

注：年齢は年度末（2021年3月31日）時点の年齢とする。

### ■職員数（本務者）

事務職員			技術系職員			医療職員			合 計		
男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
66	53	119	37	11	48	0	2	2	103	66	169

注：職員数（本務者）とは、特定有期雇用職員・再雇用職員・参事を除く、常勤職員を示す。

■工学部（第一部）

学科名	入学定員	収容定員	現員														
			1年次			2年次			3年次			4年次			合計		
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
生命・応用化学科	210 (2)	840 (4)	162 (3)	53 (0)	215 (3)	147 (2)	72 (0)	219 (2)	153 (2)	64 (1)	217 (3)	165 (1)	58 (4)	223 (5)	627 (8)	247 (5)	874 (13)
物理工学科	105 (2)	420 (4)	100 (0)	5 (0)	105 (0)	105 (3)	3 (0)	108 (3)	103 (3)	7 (0)	110 (3)	111 (0)	9 (0)	120 (0)	419 (6)	24 (0)	443 (6)
電気・機械工学科	200 (2)	800 (4)	170 (3)	33 (1)	203 (4)	174 (2)	32 (0)	206 (2)	192 (8)	31 (4)	223 (12)	207 (21)	38 (4)	245 (25)	743 (34)	134 (9)	877 (43)
情報工学科	145 (2)	580 (4)	142 (4)	12 (1)	154 (5)	137 (1)	14 (1)	151 (2)	137 (6)	14 (0)	151 (6)	156 (3)	12 (1)	168 (4)	572 (14)	52 (3)	624 (17)
社会工学科	150 (2)	600 (4)	113 (3)	42 (2)	155 (5)	117 (2)	39 (2)	156 (4)	120 (2)	46 (4)	166 (6)	136 (9)	39 (3)	175 (12)	486 (16)	166 (11)	652 (27)
創造工学教育課程	100	400	68 (0)	34 (0)	102 (0)	74 (0)	25 (0)	99 (0)	76 (0)	33 (0)	109 (0)	85 (0)	24 (0)	109 (0)	303 (0)	116 (0)	419 (0)
生命・物質工学科*												8 (2)	0 (0)	8 (2)	8 (2)	0 (0)	8 (2)
環境材料工学科*												3 (1)	0 (0)	3 (1)	3 (1)	0 (0)	3 (1)
機械工学科*												13 (2)	1 (0)	14 (2)	13 (2)	1 (0)	14 (2)
電気電子工学科*												12 (2)	0 (0)	12 (2)	12 (2)	0 (0)	12 (2)
情報工学科*												13 (0)	0 (0)	13 (0)	13 (0)	0 (0)	13 (0)
建築・デザイン工学科*												9 (0)	2 (1)	11 (1)	9 (0)	2 (1)	11 (1)
都市社会工学科*												3 (0)	0 (0)	3 (0)	3 (0)	0 (0)	3 (0)
計	910 (10)	3,640 (20)	755 (13)	179 (4)	934 (17)	754 (10)	185 (3)	939 (13)	781 (21)	195 (9)	976 (30)	921 (41)	183 (13)	1,104 (54)	3,211 (85)	742 (29)	3,953 (114)

注1：2016年4月学科改組を実施。※印は改組前の学科を指す。

注2：（ ）は、3年次編入学定員を外数で示す。

注3：（ ）は、外国人留学生を内数で示す。

■工学部（第二部）

学科名	入学定員	収容定員	現員																	
			1年次			2年次			3年次			4年次			5年次			合計		
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
物質工学科	5	25	3	2	5	3	4	7	5	0	5	4	1	5	4	0	4	19	7	26
機械工学科	5	25	5	0	5	5	1	6	4	1	5	4	0	4	4	1	5	22	3	25
電気情報工学科	5	25	5	0	5	5	1	6	6	0	6	7	0	7	8	0	8	31	1	32
社会開発工学科	5	25	5	0	5	4	1	5	4	1	5	5	1	6	5	3	8	23	6	29
計	20	100	18	2	20	17	7	24	19	2	21	20	2	22	21	4	25	95	17	112

## ■大学院工学研究科 博士前期課程

専攻名	入学定員	収容定員	現員								
			1年次			2年次			合計		
			男	女	計	男	女	計	男	女	計
工学専攻	686 (10)	686 (10)	629 (30)	105 (15)	734 (45)				629 (30)	105 (15)	734 (45)
(内訳)											
生命・応用化学系プログラム			126 (3)	42 (0)	168 (3)				126 (3)	42 (0)	168 (3)
物理工学系プログラム			76 (3)	2 (0)	78 (3)				76 (3)	2 (0)	78 (3)
電気・機械工学系プログラム			165 (6)	13 (2)	178 (8)				165 (6)	13 (2)	178 (8)
情報工学系プログラム			105 (11)	9 (7)	114 (18)				105 (11)	9 (7)	114 (18)
社会工学系プログラム			81 (6)	17 (6)	98 (12)				81 (6)	17 (6)	98 (12)
創造工学プログラム			67 (0)	21 (0)	88 (0)				67 (0)	21 (0)	88 (0)
社会人イノベーションコース <sup>※1</sup>			9 (1)	1 (0)	10 (1)				9 (1)	1 (0)	10 (1)
生命・応用化学専攻 <sup>※2</sup>	165	165				152 (4)	44 (4)	196 (8)	152 (4)	44 (4)	196 (8)
物理工学専攻 <sup>※2</sup>	78	78				81 (3)	6 (2)	87 (5)	81 (3)	6 (2)	87 (5)
電気・機械工学専攻 <sup>※2</sup>	138	138				207 (15)	9 (1)	216 (16)	207 (15)	9 (1)	216 (16)
情報工学専攻 <sup>※2</sup>	110	110				132 (10)	11 (2)	143 (12)	132 (10)	11 (2)	143 (12)
社会工学専攻 <sup>※2</sup>	85	85				88 (12)	30 (12)	118 (24)	88 (12)	30 (12)	118 (24)
計	1,262 (10)	1,262 (10)	629 (30)	105 (15)	734 (45)	660 (44)	100 (21)	760 (65)	1,289 (74)	205 (36)	1,494 (110)

注1：2020年4月専攻改組を実施。※'は主として実務の経験を有する者に対して教育を行う標準修業年限1年のコース、※'印は改組前の専攻を示す。

注2：( ) は、主として実務の経験を有する者に対して教育を行う標準修業年限1年のコースの定員を内数で示す。

注3：( ) は、外国人留学生を内数で示す。

## ■大学院工学研究科 博士後期課程

専攻名	入学定員	収容定員	現員											
			1年次			2年次			3年次			合計		
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
生命・応用化学専攻	9	27	8 (3)	2 (1)	10 (4)	8 (2)	4 (2)	12 (4)	11 (2)	3 (0)	14 (2)	27 (7)	9 (3)	36 (10)
物理工学専攻	5	15	2 (2)	1 (1)	3 (3)	4 (1)	2 (1)	6 (2)	7 (5)	2 (2)	9 (7)	13 (8)	5 (4)	18 (12)
電気・機械工学専攻	9	27	11 (4)	2 (2)	13 (6)	11 (7)	0 (0)	11 (7)	17 (6)	1 (0)	18 (6)	39 (17)	3 (2)	42 (19)
情報工学専攻	7	21	9 (4)	0 (0)	9 (4)	6 (0)	0 (0)	6 (0)	8 (1)	2 (1)	10 (2)	23 (5)	2 (1)	25 (6)
社会工学専攻	7	21	13 (3)	4 (0)	17 (3)	15 (3)	2 (0)	17 (3)	17 (3)	13 (4)	30 (7)	45 (9)	19 (4)	64 (13)
共同ナノメディシン科学専攻	3	9	1 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (1)	0 (0)	3 (1)	3 (1)	0 (0)	3 (1)	7 (2)	0 (0)	7 (2)
名古屋工業大学・ウーロンゴン大学 国際連携情報学専攻	2	6	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	2 (2)	2 (2)	1 (1)	3 (3)
機能工学専攻 <sup>※</sup>									2 (1)	0 (0)	2 (1)	2 (1)	0 (0)	2 (1)
情報工学専攻 <sup>※</sup>									4 (0)	0 (0)	4 (0)	4 (0)	0 (0)	4 (0)
社会工学専攻 <sup>※</sup>									5 (1)	4 (0)	9 (1)	5 (1)	4 (0)	9 (1)
創成シミュレーション工学専攻 <sup>※</sup>									2 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	0 (0)	2 (0)
計	42	126	44 (16)	9 (4)	53 (20)	48 (15)	8 (3)	56 (18)	77 (21)	26 (8)	103 (29)	169 (52)	43 (15)	212 (67)

注1：2016年4月専攻改組を実施。※印は改組前の専攻を指す。

注2：( ) は、外国人留学生を内数で示す。

# 2020年度入学状況

## 工学部第一部

学科名	入試別	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
生命・応用化学科	推薦	20	35 (10)	35 (10)	21 (3)	21 (3)
	前期	120	431 (128)	406 (121)	124 (33)	123 (33)
	後期	70	531 (158)	254 (78)	81 (21)	68 (17)
	私費	若干名	25 (12)	21 (9)	6 (2)	2 (0)
	国費・政費	若干名	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
	日韓	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
物理工学科	推薦	15	20 (1)	20 (1)	15 (0)	15 (0)
	前期	55	228 (9)	213 (9)	58 (5)	57 (5)
	後期	35	193 (8)	99 (4)	42 (1)	33 (0)
	私費	若干名	7 (1)	4 (1)	1 (0)	0 (0)
	国費・政費	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	日韓	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
電気・機械工学科	推薦	20	69 (69)	69 (69)	21 (21)	21 (21)
	前期	110	371 (20)	354 (18)	111 (4)	110 (4)
	後期	70	539 (35)	263 (17)	92 (8)	68 (7)
	私費	若干名	36 (4)	32 (3)	7 (2)	2 (1)
	国費・政費	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	日韓	若干名	2 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)
情報工学科	推薦	15	40 (7)	40 (7)	16 (4)	16 (4)
	前期	85	341 (27)	320 (23)	87 (4)	85 (4)
	後期	45	339 (22)	176 (14)	56 (3)	48 (3)
	私費	若干名	29 (5)	24 (4)	5 (0)	2 (0)
	国費・政費	若干名	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)
	日韓	若干名	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
社会工学科 (建築・デザイン分野)	AO	3	3 (1)	3 (1)	1 (1)	1 (1)
	前期	42	175 (53)	173 (52)	45 (15)	44 (14)
	後期	25	234 (60)	131 (36)	28 (9)	28 (9)
	私費	若干名	10 (4)	6 (3)	0 (0)	0 (0)
	国費・政費	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	日韓	若干名	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
社会工学科 (環境都市分野)	推薦	3	16 (5)	16 (5)	4 (3)	4 (3)
	前期	25	42 (8)	41 (8)	25 (6)	24 (6)
	後期	17	90 (12)	41 (4)	17 (2)	14 (1)
	私費	若干名	8 (4)	8 (4)	3 (3)	0 (0)
	国費・政費	若干名	3 (2)	3 (2)	3 (2)	3 (2)
	日韓	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
社会工学科 (経営システム分野)	推薦	3	17 (2)	17 (2)	3 (0)	3 (0)
	前期	18	62 (13)	60 (13)	19 (4)	19 (4)
	後期	14	87 (16)	46 (7)	16 (2)	13 (2)
	私費	若干名	4 (1)	3 (1)	1 (0)	1 (0)
	国費・政費	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	日韓	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
創造工学教育課程 (材料・エネルギーコース)	推薦	24	57 (14)	57 (14)	24 (6)	24 (6)
	前期	21	41 (7)	35 (7)	21 (5)	21 (5)
	後期	15	63 (9)	35 (7)	16 (5)	16 (5)
創造工学教育課程 (情報・社会コース)	推薦	16	49 (20)	49 (20)	17 (9)	17 (9)
	前期	14	37 (9)	34 (6)	14 (3)	14 (3)
	後期	10	49 (21)	30 (12)	10 (6)	10 (6)
計	推薦	116	303 (128)	303 (128)	121 (46)	121 (46)
	AO	3	3 (1)	3 (1)	1 (1)	1 (1)
	前期	490	1,728 (274)	1,636 (257)	504 (79)	497 (78)
	後期	301	2,125 (341)	1,075 (179)	358 (57)	298 (50)
	私費	若干名	119 (31)	98 (25)	23 (7)	7 (1)
	国費・政費	若干名	6 (3)	6 (3)	6 (3)	6 (3)
	日韓	若干名	4 (0)	4 (0)	4 (0)	4 (0)
計	910	4,288 (778)	3,125 (593)	1,017 (193)	934 (179)	

注1：私費は私費外国人留学生、国費は国費外国人留学生、政費はマレーシア政府派遣留学生、日韓は日韓共同理工学部留学生を示す。

注2：電気・機械工学科の「推薦」は女子のみ。

注3：( ) は、女子を内数で示す。

## ■工学部第二部

学科名	入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
物質工学科	5	前期 5	28 (7)	25 (7)	6 (2)	5 (2)
機械工学科	5	前期 5	27 (1)	22 (0)	5 (0)	5 (0)
電気情報工学科	5	前期 5	29 (1)	27 (0)	5 (0)	5 (0)
社会開発工学科	5	前期 5	20 (2)	19 (2)	6 (1)	5 (0)
計	20	前期 20	104 (11)	93 (9)	22 (3)	20 (2)

注：( ) は、女子を内数で示す。

## ■工学部第一部編入学・転入学

学科名	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
生命・応用化学科	2	10 (2)	9 (1)	5 (0)	3 (0)
物理工学科	2	5 (1)	5 (1)	3 (0)	2 (0)
電気・機械工学科	2	56 (5)	54 (5)	20 (3)	15 (3)
情報工学科	2	19 (0)	15 (0)	3 (0)	1 (0)
社会工学科	2	23 (12)	22 (12)	11 (5)	4 (2)
計	10	113 (20)	105 (19)	42 (8)	25 (5)

注：( ) は、女子を内数で示す。

## ■大学院工学研究科博士前期課程

専攻名	入試別	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
生命・応用化学系 プログラム	推薦	59	60 (14)	60 (14)	60 (14)	60 (14)
	一般	104	114 (30)	114 (30)	107 (29)	106 (28)
	私費	若干名	4 (1)	4 (1)	1 (0)	1 (0)
	国費・政費・ABE・SDGs・Pacific・ものづくり	若干名	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
物理工学系 プログラム	推薦	28	28 (2)	28 (2)	28 (2)	27 (2)
	一般	44	60 (0)	58 (0)	51 (0)	48 (0)
	私費	若干名	4 (0)	4 (0)	3 (0)	3 (0)
	国費・政費・ABE・SDGs・Pacific・ものづくり	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
電気・機械工学系 プログラム	推薦	54	57 (3)	57 (3)	55 (3)	54 (3)
	一般	96	140 (9)	137 (9)	126 (9)	120 (9)
	私費	若干名	13 (3)	12 (3)	4 (1)	3 (1)
	国費・政費・ABE・SDGs・Pacific・ものづくり	若干名	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
情報工学系 プログラム	推薦	31	29 (2)	29 (2)	28 (2)	27 (2)
	一般	71	80 (0)	78 (0)	74 (0)	70 (0)
	私費	若干名	28 (8)	26 (8)	17 (6)	16 (6)
	国費・政費・ABE・SDGs・Pacific・ものづくり	若干名	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)
社会工学系 プログラム	推薦	39	34 (6)	34 (6)	34 (6)	34 (6)
	一般	50	67 (12)	59 (10)	58 (9)	53 (6)
	私費	若干名	20 (11)	19 (11)	10 (5)	10 (5)
	国費・政費・ABE・SDGs・Pacific・ものづくり	若干名	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
社会人イノベーション コース	8月選抜	10	4 (0)	4 (0)	4 (0)	4 (0)
	2月選抜	若干名	6 (0)	6 (0)	6 (0)	6 (0)
創造工学 プログラム	推薦	100	89 (21)	89 (21)	89 (21)	89 (21)
計	推薦	211	208 (27)	208 (27)	205 (27)	202 (27)
	創造推薦	100	89 (21)	89 (21)	89 (21)	89 (21)
	一般	365	461 (51)	446 (49)	416 (47)	397 (43)
	社会人イノベーションコース	10	10 0	10 0	10 0	10 0
	私費	若干名	69 (23)	65 (23)	35 (12)	33 (12)
	国費・政費・ABE・SDGs・Pacific・ものづくり	若干名	4 (1)	4 (1)	4 (1)	4 (1)

注1：私費は、私費外国人留学生、国費は、国費外国人研究留学生、政費は、外国政府派遣大学院留学生、ABEは、ABEイニシアティブ留学生、SDGはSDGsグローバルリーダーコース留学生、ものづくりは、ものづくり愛知留学生を示す。

注2：( ) は、女子を内数で示す。

## ■大学院工学研究科博士後期課程

専攻名	入試別	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
生命・応用化学専攻	一般(1次)	9	3 (0)	3 (0)	3 (0)	3 (0)
	一般(2次)	若干名	6 (2)	6 (2)	6 (2)	6 (2)
	国費・政費	若干名	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
物理学専攻	一般(1次)	5	2 (1)	2 (1)	2 (1)	1 (1)
	一般(2次)	若干名	2 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)
	国費・政費	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
電気・機械工学専攻	一般(1次)	9	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)
	一般(2次)	若干名	4 (0)	4 (0)	4 (0)	4 (0)
	国費・政費	若干名	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
情報工学専攻	一般(1次)	7	4 (0)	4 (0)	4 (0)	4 (0)
	一般(2次)	若干名	6 (2)	6 (2)	4 (0)	4 (0)
	国費・政費	若干名	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
社会学専攻	一般(1次)	7	10 (3)	9 (3)	9 (3)	9 (3)
	一般(2次)	若干名	7 (1)	7 (1)	7 (1)	7 (1)
	国費・政費	若干名	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
共同ナノメディシン科学専攻	一般(1次)	3	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
	一般(2次)	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	10月入学	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	国費・政費	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
名古屋工業大学・ウーロンゴン大学 国際連携情報学専攻		2	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	一般(1次)	42	28 (6)	27 (6)	27 (6)	26 (6)
	一般(2次)	若干名	26 (5)	25 (5)	23 (3)	23 (3)
	10月入学	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	国費・政費	若干名	4 (0)	4 (0)	4 (0)	4 (0)

注1：国費は、国費外国人研究留学生、政費は、外国政府派遣大学院留学生を示す。

注2：( ) は、女子を内数で示す。

## ■2020年度入学者出身学校所在都道府県

地区	第一部			第二部				
	人数	比率	明細	人数	比率	明細		
北海道	2	0.2	—	0	0.0	—		
東北	5	0.5	—	0	0.0	—		
関東甲信越	30	3.2	茨城	4	1	5.0	茨城	0
			栃木	0			栃木	0
			群馬	2			群馬	0
			埼玉	3			埼玉	0
			千葉	2			千葉	1
			東京	1			東京	0
			神奈川	6			神奈川	0
			新潟	3			新潟	0
			山梨	0			山梨	0
			長野	9			長野	0
東海北陸	778	83.3	富山	7	15	75.0	富山	0
			石川	6			石川	0
			福井	6			福井	0
			岐阜	97			岐阜	2
			静岡	31			静岡	0
			愛知	567			愛知	13
			三重	64			三重	0
近畿	56	6.0	滋賀	7	3	15.0	滋賀	2
			京都	7			京都	0
			大阪	14			大阪	1
			兵庫	18			兵庫	0
			奈良	3			奈良	0
			和歌山	7			和歌山	0
中国四国	33	3.5	鳥取	2	0	0.0	鳥取	0
			島根	1			島根	0
			岡山	8			岡山	0
			広島	10			広島	0
			山口	2			山口	0
			徳島	2			徳島	0
			香川	4			香川	0
			愛媛	3			愛媛	0
			高知	1			高知	0
九州・沖縄	9	1.0	—	0	0.0	—		
その他	21	2.2	—	1	5.0	—		
計	934	100.0	—	20	100.0	—		

## ■奨学生数

2020年3月1日現在

区分	独立行政法人 日本学生支援機構				地方公共 団体	財団法人 等	大学独自 奨学金	財団法人 等 (留学生)	奨学生 合計	学生数に 対する比率	
	第一種	第二種	給付型	私費外国人 留学生学習 奨励費							
工学部	第一部	385	292	17	8	6	45	11	10	774	19.53%
	第二部	20	11	2	0	0	2	1	0	36	31.30%
工学研究科	博士前期	345	26	0	5	1	27	24	20	448	30.09%
	博士後期	18	0	0	1	0	2	12	10	43	23.12%

注：重複受給を含むため、延べ人数

## 卒業生・修了者数

### 工学部

学 科 名		2019年度卒業生	累 計
第 一 部	生命・応用化学学科	201	201
	物理工学科	97	97
	電気・機械工学科	206	206
	情報工学科	130	130
	社会工学科	149	149
	創造工学教育課程	92	92
	生命・物質工学科*	9	1,891
	環境材料工学科*	3	1,175
	機械工学科*	17	2,298
	電気電子工学科*	12	1,710
	情報工学科*	17	1,896
	建築・デザイン工学科*	3	937
	都市社会工学科*	5	1,112
	旧学科	—	38,093
計	941	49,112	
第 一 部	物質工学科	4	179
	機械工学科	5	156
	電気情報工学科	5	179
	社会開発工学科	6	140
	旧学科	—	6,379
計	20	7,033	
工学部計		961	56,145

※印のある学科・専攻は改組前のものとする。

### 大学院工学研究科

専 攻 名		2019年度修了者	累 計
博 士 前 期 課 程	生命・応用化学専攻*	178	684
	物理工学専攻*	80	337
	電気・機械工学専攻*	215	850
	情報工学専攻*	122	482
	社会工学専攻*	132	512
	旧専攻	—	13,713
	計	727	16,578
博 士 後 期 課 程	生命・応用化学専攻	6	10
	物理工学専攻	4	5
	電気・機械工学専攻	4	8
	情報工学専攻	1	3
	社会工学専攻	2	4
	機能工学専攻*	1	70
	情報工学専攻*	1	112
	社会工学専攻*	1	106
	未来材料創成工学専攻*	1	105
	創成シミュレーション工学専攻*	1	51
	共同ナノメディシン科学専攻	2	14
旧専攻	—	694	
計	24	1,182	
修士課程計		—	2,452
大学院工学研究科計		751	20,212

## 2019年度卒業生・修了者の進学状況

### 進学状況

#### (1) 進学率

出 身 区 分		卒業・修了者	進学者	進学率
工学部	第一部	941名	675名	71.7%
	第二部	20名	4名	20.0%
大学院工学研究科（博士前期課程）		727名	17名	2.3%

#### (2) 進学先

進学先	出 身				計
	学 部		大学院		
	第一部	第二部	博士前期	博士後期	
名古屋工業大学	653	4	14	0	671
東京工業大学	10	0	1	0	11
名古屋大学	5	0	0	0	5
大阪大学	3	0	0	0	3
京都大学	2	0	0	0	2
広島大学	0	0	1	0	1
神戸大学	1	0	0	0	1
東京大学	1	0	0	0	1
メルボルン大学	0	0	1	0	1
計	675	4	17	0	696

## 2019年度卒業生・修了者の就職状況

2019年度卒業生・修了者の就職状況

区 分		学 部		大学院		合 計
		第一部	第二部	前期課程	後期課程	
進学者数		675	4	17 <sup>*1</sup>	0	696
就職者数	正規の職員	243	14	696 <sup>*1</sup>	18	971
	正規の職員等でない者 <sup>*2</sup> (雇用契約が1年以上かつフルタイム勤務相当の者)	0	0	1	3	4
その他		23	2	14	3	42
計		941	20	727	24	1,712
農業、林業		0	0	0	0	0
漁業		0	0	0	0	0
鉱業、採石業、砂利採取業		0	0	0	0	0
建設業		32	1	44	1	78
製造業	食料品・飲料・たばこ・飼料	0	0	4	0	4
	繊維工業	1	0	2	0	3
	印刷・同関連業	0	0	4	1	5
	化学工業、石油・石炭製品	4	2	42	0	48
	鉄鋼業、非鉄金属・金属製品	12	1	36	0	49
	はん用・生産用・業務用機械器具	6	0	37	1	44
	電子部品・デバイス・電子回路	4	0	44	0	48
	電気・情報通信機械器具	13	4	58	1	76
	輸送用機械器具	46	2	216	3	267
その他	13	1	42	5	61	
電気・ガス・熱供給・水道業		5	0	31	0	36
情報通信業		49	0	79	1	129
運輸業、郵便業		4	0	10	0	14
卸売業		4	0	4	0	8
小売業		0	0	0	0	0
金融業		2	0	1	0	3
保険業		0	0	0	0	0
不動産業、物品賃貸業	不動産取引・賃貸・管理業	0	0	5	0	5
	物品賃貸業	2	0	0	0	2
学術研究、専門・技術サービス業	学術・開発研究機関	4	0	3	6	13
	法務	0	0	0	0	0
	その他の専門・技術サービス業	5	1	11	0	17
宿泊業、飲食サービス業		0	0	0	0	0
生活関連サービス業、娯楽業		1	0	4	0	5
教育、学習支援業	学校教育	1	0	1	1	3
	その他の教育、学習支援業	1	0	0	0	1
医療、福祉	医療業、保健衛生	0	0	0	0	0
	社会保険・社会福祉・介護事業	0	0	0	0	0
複合サービス事業		0	0	2	0	2
サービス業	宗教	0	0	0	0	0
	その他のサービス業	4	1	3	0	8
公務	国家公務	5	0	3	0	8
	地方公務	20	1	8	1	30
上記以外		5	0	3	0	8
計		243	14	697	21	975

注1：就職進学者1名を含む

注2：雇用の期間が1年以上で期間の定めがあるものであり、かつ1週間の所定の労働時間がおおむね40～30時間程度の者を指す。

## ■就職状況

## (1) 就職率

出身区分		求職者	求人倍率	就職者	就職率
工学部	第一部	246名	19.1倍	243名	98.8%
	第二部	15名		14名	93.3%
大学院工学研究科	博士前期課程	702名	4.4倍	697名	99.3%
	博士後期課程	21名		21名	100.0%

注：現職者（博士前期課程14名、博士後期課程11名）を含む。

## (2) 主な就職先

産業界（2名以上）

就職先	出身				合計
	学部		大学院		
	第一部	第二部	前期課程	後期課程	
デンソー	2		30		32
豊田自動織機	1		23		24
アイシン精機	2		20		22
中部電力	3		18		21
トヨタ自動車	7		12		19
トヨタ紡織	4		11		15
東海理化電機製作所	1		13		14
日本ガイシ	2		9		11
ダイキン工業			10		10
トヨタ車体	3	1	6		10
パナソニックエコシステムズ	2		8		10
豊田合成	1		9		10
本田技研工業	1		9		10
アイシン・エイ・ダブリュ	2		7		9
ソフトバンク	1		8		9
パナソニック			9		9
住友電装	2		7		9
川崎重工業			9		9
大成建設	3		6		9
トヨタシステムズ	1		7		8
ブラザー工業			8		8
日本製鉄			8		8
リンナイ	1		6		7
三菱電機	2		5		7
スズキ	1		4	1	6
ノリタケカンパニーリミテド			6		6
三菱電機メカトロニクスソフトウェア			6		6
清水建設	1		5		6
日本特殊陶業	2		4		6
JR 東海コンサルタンツ	2		3		5
SCSK	2		3		5
アドヴィックス	1		4		5
エヌ・ティ・ティ・データ東海	3		2		5
ジェイテクト			5		5
デンソークリエイト	3		2		5
パロマ	3		2		5
マキタ			5		5
ヤマハ発動機	2		3		5
三菱自動車工業	1		4		5
三菱重工業			5		5
大林組	3		2		5
中日本高速道路			5		5
榎屋	3		2		5
東海旅客鉄道	1		4		5
FUJI	1		3		4
アビ			4		4
ヴィッツ	3		1		4
エヌ・ティ・ティ・ドコモ	1		3		4
デンソーテクノ	1	1	2		4
ヤフー			4		4
ヤマザキマザック			4		4
愛知製鋼			4		4
村田製作所			4		4

就職先	出身				合計
	学部		大学院		
	第一部	第二部	前期課程	後期課程	
東邦ガス	1		3		4
日本車輛製造			4		4
日立製作所			4		4
JFE エンジニアリング			3		3
JSR			3		3
アドマテックス	1		2		3
オークマ			3		3
オービック	3				3
ダイテック			3		3
パイロットインキ	2		1		3
フタバ産業	1		2		3
愛三工業	1		2		3
花王			3		3
楽天			3		3
京セラ			3		3
三栄ハイテックス	1		2		3
三菱ケミカル			3		3
積水ハウス	3				3
大同メタル工業	1		2		3
大同特殊鋼			3		3
大豊工業	1		2		3
竹本油脂			3		3
東京電力			3		3
東芝メモリ			3		3
日本 IBM			3		3
浜松ホトニクス			3		3
AGC			2		2
ALBERT			2		2
AZAPA	1		1		2
ISOWA	1		1		2
JFE スチール			2		2
LIXIL			2		2
TYK	1		1		2
アイヴィス			2		2
アイカ工業			2		2
アウトソーシングテクノロジー	2				2
アビームシステムズ			2		2
イビデン	1		1		2
エヌ・ティ・ティ・データ			2		2
キャノン			2		2
キョーラク			2		2
サイバーエージェント	1		1		2
シマノ			2		2
セイコーエプソン			2		2
ゼネラルパッカー	2				2
テルモ			2		2
デンソーセールス	2				2
パッファロー	2				2
ファナック			2		2
フューチャーアーキテクト	1		1		2
ポッシュ			2		2
マツダ	1		1		2
メイテツコム	1		1		2
ヤマハ			2		2
ローム			2		2
伊藤建築設計事務所	1		1		2
戸田建設	1		1		2
高砂電気工業		1	1		2
三甲	2				2
三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング			2		2
三菱電機エンジニアリング			2		2
鹿島建設	1		1		2
住友理工			2		2
住友林業	2				2
小糸製作所			2		2
小松製作所			2		2
西日本電信電話	1		1		2
大陽日酸			2		2
竹中工務店	1		1		2

就職先	出身				合計
	学部		大学院		
	第一部	第二部	前期課程	後期課程	
中電シーティーアイ	2				2
島津製作所			2		2
東レ			2		2
東レエンジニアリング			2		2
東レ建設			2		2
東建コーポレーション	2				2
東芝プラントシステム	1		1		2
東日本旅客鉄道			2		2
東邦ガス情報システム	2				2
東亜合成			2		2
凸版印刷			2		2
日産自動車	1		1		2
日東工業	1		1		2
日本工営			2		2
日立ハイテクノロジーズ			2		2
日立建機			2		2
武蔵精密工業			2		2
豊田通商	1		1		2
名古屋鉄道			2		2
林テレンプ	2				2
計	127	3	517	1	648

## 教育・研究機関（全て）

就職先	出身				合計
	学部		大学院		
	第一部	第二部	前期課程	後期課程	
名古屋工業大学			1	3	4
名古屋市立大学	1				1
State Islamic University (UIN) Walisongo				1	1
中南大学				1	1
計	1	0	1	5	7

## 官公庁（全て）

就職先	出身				合計
	学部		大学院		
	第一部	第二部	前期課程	後期課程	
名古屋市	9	1	2		12
愛知県	4				4
名古屋港管理組合	2		1		3
国土交通省中部地方整備局	1		1		2
愛知県警察	1				1
岡崎市	1				1
岐阜県			1		1
京都府教育委員会			1		1
経済産業省中部近畿産業保安監督部	1				1
国土交通省			1		1
国土交通省中国地方整備局	1				1
三重県警察	1				1
滋賀県	1				1
小牧市	1				1
同済設計事務所（中国）			1		1
豊橋市			1		1
豊田市			1		1
防衛省地方防衛局	1				1
計	24	1	10	0	35

## 非営利法人（全て）

就職先	出身				合計
	学部		大学院		
	第一部	第二部	前期課程	後期課程	
（一財）材料科学技術振興財団				1	1
公園財団	1				1
水資源機構	1				1
製品評価技術基盤機構			1		1
文化財建造物保存技術協会			1		1
計	2	0	2	1	5

# 外国人留学生数

外国人留学生数

## 外国人留学生数一覧（国・地域別）

区分 国・地域	国費等外国人留学生						私費外国人留学生										計													
	学部 生	学部 研究生	大学院		日本語 研修 計	計	外国政府派遣等留学生				その他				短期留学生		学部 生	※学部 研究生等	大学院		日本語 研修 計	科目等 履修生	総 計							
			前期	後期			学部 研究生	大学院 研究生	学部 研究生	学部 研究生	大学院 研究生	科目等 履修生	学部 生	大学院 生	前期	後期			※研究生等											
																				前期				後期	前期	後期				
アフガニスタン				2		2																	4							
イタリア																				1			1							
イラン			1 (1)			1 (1)																	3 (2)							
インド	1		1 (1)	1 (1)		3 (1)																	14 (4)							
インドネシア			2 (1)			2 (1)								2									4 (1)							
エジプト				2 (1)		2 (1)				2													4 (1)							
エチオピア														1									1							
ギリシャ	1					1																	1							
コンゴ民主共和国																							2 (1)							
スリランカ	1 (1)					1 (1)																	1 (1)							
タイ																							1							
トーゴ																							1							
トルコ																							1 (1)							
ネパール																							2							
バキスタン			1	2		3																	3							
バブアニューギニア																							1							
バングラデシュ			2	4		6																	7							
ブラジル	1					1																	1							
フランス																							1							
ベトナム			1 (1)	2		3 (1)																	21 (3)							
ベネズエラ						1																	1							
マレーシア				1		1	21 (8)																23 (8)							
モーリタニア			1 (1)			1 (1)																	1 (1)							
モンゴル																							18 (9)							
韓国	9 (1)					9 (1)	13																41 (4)							
中国																							187 (63)							
計	13 (2)	0 (0)	9 (4)	14 (2)	0 (0)	1 (0)	37 (8)	34 (8)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	36 (8)	67 (19)	51 (18)	101 (32)	51 (13)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	272 (83)	114 (29)	51 (18)	110 (36)	67 (15)	2 (1)	1 (0)	0 (0)	345 (99)

注1：（ ）内は、女子を内数で示す。

注2：国費等外国人留学生には日韓共同理工系学部留学生9名、外国政府派遣等留学生には日韓共同理工系学部留学生13名を含む。

注3：「研究生等」には、「短期留学生」（主として大学間交流協定に基づいて母国の大学に在籍し、必ずしも学位取得を目的としない、概ね1学年以内の1学期間又は複数学期教育を受ける留学生）を含む。

注4：外国人留学生数には未渡日者を含む。

# 学術交流協定締結状況

大学間学術交流協定数	78
部局間学術交流協定数	16
合計国・地域数	36

学生交流について：●授業料等不徴収の条項あり  
○授業料等不徴収の条項なし

国・地域	大学名／機関名（本学締結部局）	学生交流	締結年	
アフガニスタン	カブール大学	○	2005	
	バングラデシュ	○	1999	
中国	陝西科技大学	○	1990	
	清華大学	●	2008	
	西安交通大学	●	1996	
	浙江大學	○	1997	
	北京理工大学	○	1997	
	北京化工大学	●	2005	
	北京化工大学炭素繊維与複合材料研究所（本学先進セラミックス研究センター）	○	2007	
	同濟大学	●	2006	
	中国科学院半導体研究所	○	2007	
	復旦大学	○	2007	
	中山大學	○	2008	
	四川省社会科学院	○	2008	
	厦門大学材料学院	○	2009	
	大連東軟信息学院	●	2010	
	中国地質大学	●	2019	
蘭州大学	蘭州大学	●	2019	
	長春大学図書館（本学図書館）	○	1995	
吉林大學図書館（本学図書館）	○	1995		
インド	アナ大学	●	1996	
	インド工科大学ボンベイ校	○	2002	
	中央ガラス・セラミックス研究所	○	2005	
	デリー大学	○	2007	
	インド国立科学研究所	○	2009	
	インド国立科学研究所科学および工業研究カウンスル（本学先進セラミックス研究センター）	○	2013	
	ソナ工業大学フォトニクス・ナノテクノロジーセンター（本学電気・機械工学専攻）	○	2014	
	インド工科大学バラナシ校	●	2019	
	インドネシア	ウタヤナ大学	○	2003
		漢陽大学校	●	2003
韓国	ソウル国立大学電気情報工学専攻（本学情報工学専攻）	○	2005	
	ソウル国立大学経営工学専攻（本学社会工学専攻）	○	2015	
マレーシア	マラ工科大学	●	2010	
	マレーシア工科大学	●	2005	
ミャンマー	ツジ・フセイン・オン・マレーシア大学	●	2006	
	ツジ・フセイン・オン・マレーシア大学	●	2017	
オマーン	ヤンゴン・コンピュータ大学	●	2018	
フィリピン	サルタンカパス大学	○	2003	
	ボホール島州立大学	○	2016	
タイ	タマサート大学	●	2004	
	タマサート大学	●	2007	
	チュラロンコン大学	●	2008	
	モンクット王工科大学ラートクラバン校	●	2018	
	スラナリー工科大学	●	2019	
台湾	国立台北科技大学	●	2005	
	国立清華大学	●	2020	
トルコ	ドゥムルプナル大学冶金・マテリアル工学専攻（本学生命・応用化学専攻）	○	2019	
ベトナム	ベトナム科学技術アカデミー物質科学研究所	○	2008	
	ハノイ工科大学	○	2008	
アフリカ	エジプト英国大学	●	2019	
オセアニア	クイーンズランド大学社会工学専攻（本学社会工学専攻）	○	2016	
	ウーロンゴン大学	○	2017	
	ニュージーランド	オークランド工科大学	○	2018
オーストラリア	ウイーン工科大学	○	2014	
	ブルガリア	ペリコ・タルノボ大学	○	2013
フィンランド	アールト大学	○	2003	
	リモージュ大学、国立セラミックス工科大学大学院	●	2003	
	リール国立化学大学院	●	2003	
	Efrei Paris	●	2015	
	ESTP	●	2009	
	ESIGELEC	●	2010	
	ボワティエ大学	●	2010	
	ケムニッツ工科大学電気情報工学部（本学情報工学専攻）	○	2006	
	エアランゲン・ニュルンベルグ大学	●	2011	
	ヴルム大学	○	2019	
フリードリヒ・シラー大学イェナ化学・地球科学専攻（本学生命・応用科学専攻）	○	2019		
ハンガリー	ブダペスト工科大学	○	2019	
イタリア	パドバ大学	●	2019	
	サレルノ大学	○	2018	
ラトビア	リガ工科大学	○	2020	
ノルウェー	アグデル大学理工学専攻（本学電気・機械工学専攻）	○	2017	
	ノルウェー科学技術大学工学部（本学創造工学教育課程）	○	2020	
ポーランド	ボスナン工科大学	●	2018	
	ウッチ工科大学	●	2018	
ポルトガル	コインブラ大学	○	2020	
ルーマニア	ヤシ「アレクサンドルーイオンクザ」大学	○	1999	
	ヤジ工科大学	○	2018	
ロシア	メンデレーフ・ロシア化学技術大学	●	1991	
スペイン	バレンシア州立工科大学	●	2000	
	アルカラ大学	○	2015	
	バルセロナ自治大学	○	2016	
	バレンシア大学	○	2019	
	マドリッド・カルロス3世大学	○	2019	
スウェーデン	ルレオ工科大学	●	2013	
スイス	スイス連邦材料試験研究所（本学先進セラミックス研究センター）	○	2016	
	インベリアル・カレッジ・ロンドン	○	1991	
英国	リニス大学	○	1991	
	リニス大学量子科学工学研究所（本学先進セラミックス研究センター）	○	2007	
	シェフィールド大学	○	2005	
	アーカンソー大学フォートスミス校	○	2007	
北米	アメリカ合衆国	○	2007	
	クレムソン大学	○	2008	
	フロリダ大学	○	2010	
	リバーハイ大学	●	2020	
南米	ブラジル	○	1999	
	ブラジリア大学	○	2014	
	パラナ工業大学電気情報工学専攻（本学情報工学専攻）	○	2014	

学術交流協定締結状況

## 2019年度科学研究費助成事業

## 2019年度知的財産収入

件数	金額（千円）
214	599,950

内 訳	金額（千円）
特許権等	11,497
著作権	148
ノウハウ	5,738
有体物	5,152
合 計	22,535

## 2019年度財政状況

区 分	決算額
運営費交付金	4,858
自己収入	3,548
学生納付金収入	3,249
雑収入	298
外部資金関係収入	2,576
施設整備費補助金等	204
施設整備費補助金	184
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	20
前年度からの繰越金	454
計	11,640

区 分	決算額
人件費	6,174
物件費	2,321
教育経費	765
研究経費	722
教育研究支援経費	350
一般管理費	484
外部資金関係事業費	2,504
施設整備費補助金等事業	204
翌年度への繰越金	437
計	11,640

注1：単位未満の四捨五入により合計額が一致しない場合がある。

注2：外部資金関係収入については、〈外部資金関係内訳〉を参照。

注3：前年度からの繰越金については、2019年度支出分のみを記載。

## 〈外部資金関係内訳〉

(単位：百万円)

区 分	件 数	決算額
寄附金	548	240
受託研究費	86	1,145
共同研究費	303	807
受託事業費	20	107
ぎふ技術革新センター運営協議会共同研究助成事業助成金	1	1
科学技術人材育成費補助金	2	22
国立大学イノベーション創出環境強化事業交付金	1	100
中小企業経営支援等対策費補助金	6	13
間接経費（科学研究費補助金等）	291	141
計	1,258	2,576

注1：単位未満の四捨五入により合計額が一致しない場合がある。

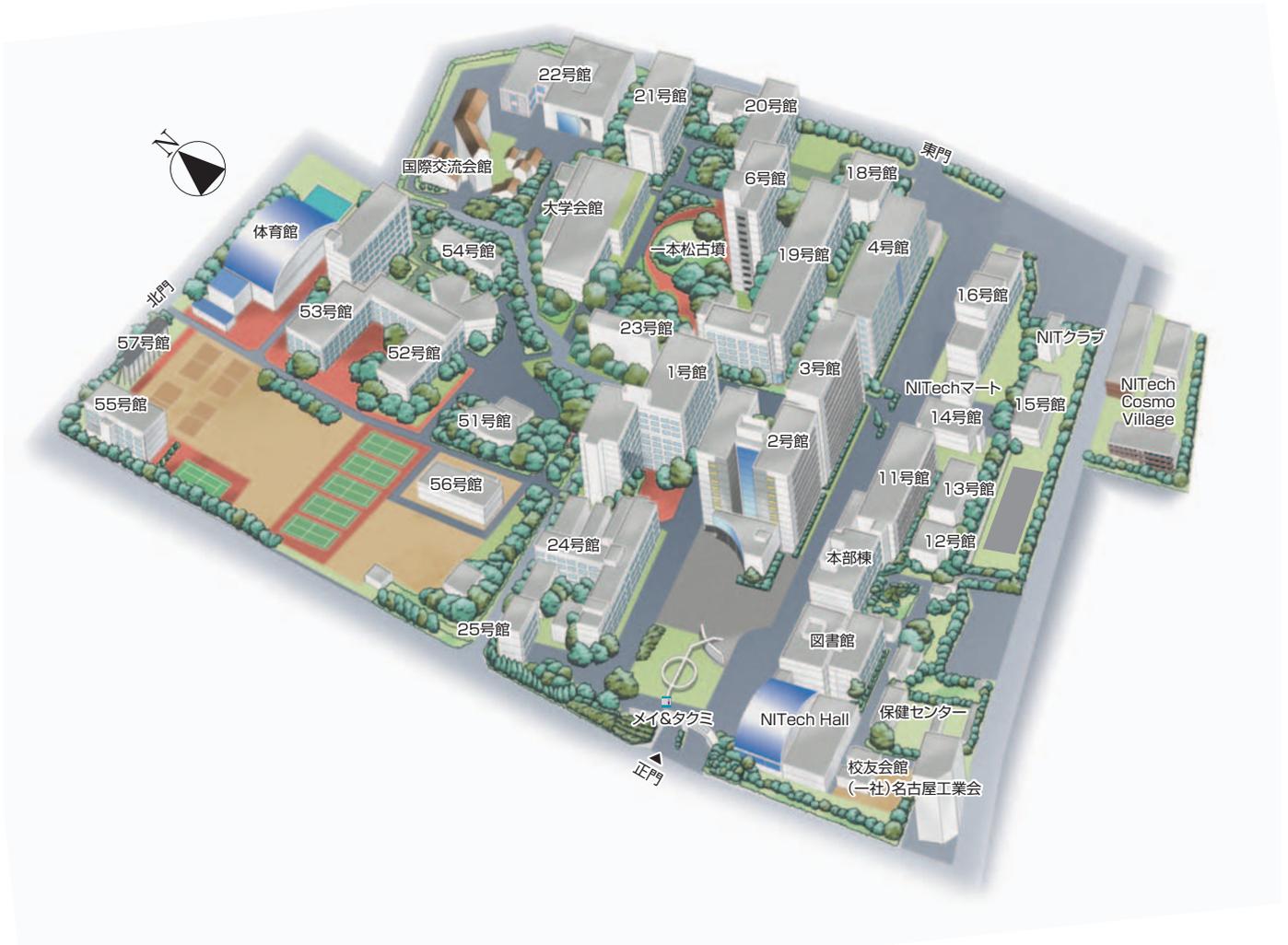
注2：件数及び決算額については、2019年度決算資料に基づく。

区 分		建物 (単位: m <sup>2</sup> )	土地 (単位: m <sup>2</sup> )	所 在 地
御器所団地	専門学科・共通教育等	106,258	138,664	〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町 電話 052 (735) 5000
	本部棟	3,299		
	産学官金連携機構	3,428		
	フロンティア研究院	303		
	図書館	5,577		
	全学共通支援組織	1,152		
	教育推進組織	1,433		
	学術推進組織	2,944		
	研究人財高度化組織	232		
	NITech Hall	1,667		
	体育館	2,479		
	55号館 (課外活動共用施設)	1,729		
	57号館 (課外活動施設)	485		
	大学会館	4,478		
	国際交流会館	2,155		
	NITクラブ	264		
	校友会館	589		
	NITech マート	303		
その他	2,103			
小 計	140,878	138,664		
千種団地	千種運動場	481	34,439	〒464-0083 名古屋市千種区北千種二丁目512-1 電話 052 (711) 2742
	学生寮 (恒和寮)	2,933	7,336	
	小 計	3,414	41,775	
先進セラミックス研究センター	2,754	20,943	〒507-0071 多治見市旭ヶ丘十丁目6-29 電話 0572 (27) 6811	
多治見駅前地区	*a 1,067		〒507-0033 多治見市本町三丁目101-1 (クリスタルプラザ多治見4階) 電話 0572 (24) 8110	
蒲郡艇庫	*a 224		〒443-0014 蒲郡市海陽町1-7 (蒲郡市営共同艇庫 B-1)	
庄内川艇庫	376	635	〒454-0944 名古屋市中川区大蟻螂町字西流358-3	
志段味課外活動施設	246	*a 7,683 87	〒463-0002 名古屋市守山区大字中志段味字南原2678 電話 052 (736) 1322	
木曽駒高原セミナーハウス	378	*a 4,628	〒397-0002 長野県木曽郡木曽町新開129-10 電話 0264 (23) 7623	
狭間団地 (ナイトック・コスモ・ヴィレッジ)	3,803	3,955	〒466-0062 名古屋市昭和区狭間町27	
合 計	151,849 *a 1,291	213,655 *a 4,715		

\*a: 借上げ数量を、外数で示す。

## 学内配置図

学内配置図、クラブ・サークル



## クラブ・サークル

体育系	
1	陸上競技
2	水泳
3	硬式野球
4	準硬式野球
5	硬式庭球部
6	ソフトテニス
7	バスケットボール
8	男子バレーボール
9	女子バレーボール
10	卓球
11	バドミントン
12	サッカー
13	ラグビー
14	アメリカンフットボール
15	アイスホッケー
16	ハンドボール
17	柔道
18	剣道
19	体操
20	馬術
21	空手道
22	弓道
23	合気道

24	ゴルフ
25	ボート
26	ヨット
27	スキー
28	ライフル射撃
29	航空
30	自動車
31	ワンダーフォーゲル
32	ビリヤード
33	日本拳法部

文化系	
1	管弦楽団
2	ギターアンサンブル
3	A. F. Q. (軽音楽)
4	PMC 祭ん (ライブ)
5	合唱団
6	E. S. S. (英語研究)
7	美術部
8	写真研究部
9	将棋部
10	囲碁部
11	鉄道研究会
12	ソーラーカー部

13	コンピュータ倶楽部
14	ロボ工房
15	Seminar (討論)
16	Dance Freaks Community (DFC)
17	名古屋工業大学新聞部
18	マジックサークル NIT
19	名古屋工業大学吹奏楽団
20	名工大ボランティア部
21	環境委員会 NEP
22	天文部
23	人力飛行機研究会 NIEWS
24	COde (プログラミング)
25	漫画研究部
26	Grazie!! (アカペラ)

同好会	
1	Blue Grass (テニス)
2	シミュレーションゲーム友の会 (SLG)
3	V. I. C (バレーボール)
4	チーム火曜日 (軟式野球)
5	名工大ポケモンサークル Nit Poke
6	TABLE STUDIO (カードゲーム)
7	NIT SW (釣り)
8	Chuck (軟式野球)

9	彩綾~SAYA~(学内女子学生の支援)
10	NITJ (サッカー)
11	MJ (競技麻雀)
12	作曲サークル
13	MKC (バンド)
14	学生山岳同人 鶴
15	Smiling (基礎スキー、スノーボード)
16	ムービズム (映像研究)
17	NIT PACOD (ダンス)
18	中国留学生学生会
19	DioE (テーブルトークロールプレイングゲーム)
20	劇団「老若男女未来学園」
21	NaSH (アンブレラナマインドの醸成)
22	オリエンテーリング同好会
23	名工気象学研究サークル
24	名工大スマブラサークル
25	クイズ研究会
26	Nitest (テスト問題作成・解答)
27	東名工魔郷
28	茶道同好会
29	カラオケ同好会
30	ラジオ体操同好会
31	名工大アイドルマスター同好会 NitM@S

# アクセスマップ



JR 東海	名古屋駅	約6分 (中央本線)	鶴舞駅下車名大病院口東へ500m		
地下鉄	名古屋駅	約2分 (東山線)	伏見	約6分 (鶴舞線)	鶴舞駅下車4番出口東へ500m
市バス	栄	約14分 (栄18番系統妙見町行き)	名大病院下車東へ200m		



## ■ 表紙デザインについて

名古屋工業大学をイメージさせる工学系のグラフィックと、地球と繋がる点と線のグラフィックで産学官連携や産業界との融合を表現するとともに、従来の枠組みを超えた工学教育体制下で育つイノベーションリーダーやグローバルに活躍する技術者・研究者らをイメージした様々な人物のイラストを組み合わせることで、キャンパスの多様化を表現しています。



国立大学法人

## 名古屋工業大学

概要 2020-2021

2020年8月発行

発行

名古屋工業大学

所在地

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町

TEL 052-735-5000

URL <https://www.nitech.ac.jp>

編集

名古屋工業大学企画広報課

